

弓道教本第一巻射法篇（補正増補）索引について

通常の専門用語を調べる以外に、教本内で「この言葉」「この文」が記載されていた前後の内容を確認したい、というときに使えるように弓道用語でないものも索引に載せてあります。ご利用ください。

長野県弓道連盟 科学委員会

弓道教本第一巻射法篇(補正増補)索引

あ

あいてがたとしょうぶ	相手方と勝負	36,
あいてがたをそんちょう	相手方を尊重	36,
あいぶ	愛撫	32,
あきらめ	あきらめ	36,
あくへき	悪癖	100,
あくらん	「握卵」	111,
あし	足	75,
あしかず	足数	75,
あしがまえ	足がまえ	105,
あし、こし、けいついをじく	足、腰、頸椎を軸	100,
あしぞこであしぶみをし	足底で足踏み	165,
あしぞこをだいちにふみしめ	足底を大地に踏みしめ	106,
あしつけぶし	足付節	191,
あしのうらがみえない	足の裏が見えない	73,
あしのそろえかた	足のそろえ方	66,
あしのとじかた	〔足のとじ方〕	122,
あしのとじかたにはさんようしき	足のとじ方には三様式	122,
あしのとじかたはひらきかたとたいおう	足のとじ方は開き方と対応	123,
あしのはこびかたについて	足の運び方について	176,
あしのはこびにこきゅうをあわせる	足のはこびに呼吸を合わせる	75,
あしのひらきかたとたいおう	足の開き方と対応	123,
あしのひらきかたにふたつのほうほう	足の開き方に二つの方法	106,
あしのふみかた	足の踏み方	105,
あしはしぜんによりそう	足は自然によりそう	78,
あしはそうほうそろい	足は双方そろい	69,
あしぶみ	足踏み	63,102,104,105,109,
あしぶみがせまくなる	足踏みが狭くなる	107,
あしぶみがひろすぎ	足踏みが広過ぎ	107,
あしぶみとほぼどうよう	足踏みとほぼ同様	123,
あしぶみ・とりゆみのしせいでまつ	足踏み・執弓の姿勢で待つ	164,
あしぶみにちゅうい	「足踏み」に注意	163,
あしぶみのかんかくをせまく	足踏みの間隔を狭く	123,
あしぶみのかんかくやかかどのこうき	足踏みの間隔や角度の広狭	107,
あしぶみのため	足踏みのため	140,
あしぶみののち	「足踏み」ののち	179,
あしぶみのひらきかた(とじかた)	足踏みの開き方(閉じ方)	141,
あしぶみのままたいがまえをくずさず	足踏みのまま体構えをくずさず待つ	163,
あしぶみのままとりゆみのしせいでまつ	「足踏み」のまま執弓の姿勢で待つ	164,
あしぶみをきそとして	「足踏み」を基礎として	107,
あしぶみをし	足踏みをし	135,
あしぶみをしておこなう	足踏みをして行う	168,
あしぶみをしてしゃをおこなう	足踏みをして射を行う	156,
あしぶみをしてりょうひざをひらき	足踏みをして両膝を開き	165,
あしぶみをする	足踏みをする	137,140,
あしぶみをとじる	足踏みをとじる	160,
あしぶみをとじるのとどうじ	「足踏み」をとじるのと同時	156,
あしもとをみない	足もとを見ない	106,
あしをそろえ	足をそろえ	142,
あしをとじ、いっぽこうたい	足をとじ、一步後退	171,
あしをとじてそのばにきざ	足を閉じてその場に跪坐	142,
あしをとじる	足をとじる	122,
あしをよせきざし	足を寄せ跪坐し	172,173,
あしをよせほこうし	足を寄せ歩行し	172,
あじわえない	味わえない	25,
あずさ	梓	29,
あずち	あずち	132,
あずち	塚	193,
あずちにおいて	塚において	153,
あずちのないばあい	塚のない場合	132,

あすのきゆうかい	明日の弓界	13,
あせのついたとき	汗のついたとき	186,
あたらしいきょうちにすすむ	新しい境地に進む	9,
あたらしいかだい	新しい課題	13,17,
あたらしいりょうどをえたとき	新しい領土を得たとき	27,
あたためやとどうよう	あたため矢と同様	174,
あたりもげんずる	「あたり」も減ずる	59,
あっしりあ	アッシリア	24,
あっしりあじんのゆみ	アッシリア人の弓	27,
あづち	安土	132,
あづち	(安土)	193,
あとあし	後足	→うしろあし
あまつゆがしぜんにちにおちる	雨露が自然に地に落ちる	120,
あらかじめはだをぬいででる	あらかじめ肌をぬいで出る	169,
あらびあ	アラビア	24,27,
あるきかた	歩き方	61,73,75,
あわせばなれ	合わせ離れ	121,
あんていしんをみだす	安定心を乱す	36,
あんどんばかま	行燈袴	190,
い		
いえをととのえ	家をととのえ	128,
いおわたあと	射終わった後	139,153,
いおわたしやしゆ	射終わった射手	148,
いおわたならば	射終わったならば	164,
いおわたのち	射終わったのち	142,
いおわってこうたい	射終わって後退	136,
いおわってしやいからのくとき	射終わって射位から退くとき	170,
いおわってゆだおし	射終わって弓倒し	140,164,
いおわるのをまつ	射終わるのを待つ	157,164,
いおわれば	射終われば	142,171,
いぎ	威儀	↓
いぎあり	威儀あり	80,
いぎただしく	威儀正しく	60,
いき	息	↓
いきあい	息合い	58,62,64,157,162,
いきあい	(息合い)	99,101,
いきあいがしゆたい	息合いが主体	75,
いきあいがともなわない	息合いが伴わない	101,
いきあい、きあいにあわせ	息合い、気合いに合わせ	155,
いきあいつきょうおう	息合いと協応	101,114,145,
いきあいにあわせしずかに	息合いにあわせ静かに	178,
いきあいにあわせてどうさ	息合いにあわせて動作	156,
いきあいにちゆうい	息合いに注意	102,
いきあいはきほんどうさをいかす	息合いは基本動作を生かす	101,
いきをつめないよう	息をつめないよう	68,
いきをはく	息を吐く	→吐く
いきかたをことにしている	行き方を異にしている	38,
いきょう	遺教	128,
いぎりすのゆみは	イギリスの弓は	44,
いくん	遺訓	52,53,
いしきのはつどうにともなうこきゆう	意識の発動に伴う呼吸	101,
いしのちから	意志の力	103,
いじょうなちゆうい	異常な注意	26,
いしりよく	意志力	103,
いすにかけるとき	椅子にかけるとき	67,
いすになるべくふかく	椅子になるべく深く	66,
いたつき	板付	192,
いたつき	平題	192,
いたつきをかくしたばあい	板付をかくした場合	93,
いたつきをかくしてもつばあい	板付をかくしてもつ場合	89,
いたつき(やのね)をまえにして	板付(矢の根)を前にして	88,
いたつきをもっていちどにぬきとり	板付を持って一度に抜きとり	96,
いたつきをもってみぎてこぶしをこし	板付を持って右手拳を腰	183,
いちげんしたい	一言したい	14,

いちじるしいとくしゅせい	著しい特殊性	21,
いちのこし	(一の腰)	192,
いちばんのしやしゅがせんだう	一番の射手が先導	162,
いちばんのしやしゅは、ぜんいいんをゆう	一番の射手は、全員を誘導	164,
いちぶじくひょうげんなどのしゅうせい	一部字句表現などの修正	18-2,
いちぶしゅうせいほひつ	一部修正補筆	15,
いちまいにかさなる	一枚に重なる	117,
いちみんぞくのとくゆうのもの	一民族の特有のもの	24,
いちようにおこなう	一様に行う	141,
いっかんしたしやがりっぱにかんせい	一貫した射が立派に完成	122,
いつけぶし	射付節	192,
いつけぶしのあたりをはさんで	射付節のあたりをはさんで	96,
いつけぶしのしたをもって	射付節の下を	180,
いつけぶしのところをつるにあて	射付節のところを弦にあて	95,
いつけぶしまたはいたつきをもって	射付節または板付を持って	183,
いつけぶしをにぎり	射付節を握り	88,
いつけぶしをもったばあい	射付節を持った場合	93,
いつけぶしをもつばあいと	射付節を持つ場合と	89,
いっしゃくごすん	一尺五寸	144,189,
いっしゃくさんずん	一尺三寸	188,
いっしゃくにすん	一尺二寸	186,
いっしゃくはっすん	一尺八寸	144,189,
いっしゃはいっぽんのたけのようなもの	一射は一本の竹のようなもの	105,
いっせんにまことをつくすこと	一箭に誠をつくすこと	128,
いっそうよいきょうほん	一層よい教本	17,
いっそくでとし	一足で閉じ	141,
いっそくでふみこんだばあい	一足で踏み込んだ場合	141,
いっそくでふみこんでも	一足で踏み込んだも	141,
いったんきざ	一たん跪坐	154,158,173,
いっばんえんぶ・きょうぎとうのばあい	一般演武・競技等の場合	189,
いっぼこうたいして、たいしゅつ	一步後退して、退出	171,
いっぽんのやにうつされはなれをしょうす	一本の矢に移され「離れ」を生ずる	120,
いて	射手	→しやしゅ
いと	意図	13,
いとでぬったもの	糸で縫ったもの	185,
いなおさない	射直さない	174,
いなおしをしない	射直しをしない	174,
いなおしをみとめない	射直しを認めない	174,
いはなつ	射放つ	136,
いばらのみち	茨の道	12,
いぶつ	遺物	189,
いりぐち	入口	193,
いりよくがしょうちよう	威力が象徴	25,
いるもくてき	射る目的	22,
いろんはない	異論はない	34,
いわいごとそのたじゅうようなぎしき	祝いごとその他重要な儀式	132,
いをそそぎ	意を注ぎ	75,77,
いんせいをふっしょく	陰性を払拭	119,
いんど	インド	22,27,
いんどねしあ	インドネシア	27,
う		
うえにのびるようにしておこす	上に伸びるようにして起こす	87,
うごきのみじかいどうさほど	動きの短い動作ほど	102,
うしろあしにすすむきもち	後足に進む気持ち	75,
うしろあしをひきずることのないよう	後足を引きずることのないよう	74,
うしろのものがさきにはならない	後ろの者が先に射てはならない	168,
うたがい	疑い	119,
うちおこし	打起し	104,111,
うちおこしのたかさはやく45どをきじゅ	「打起し」の高さは約四十五度を基準	111,
うちおこしたゆみを	打起こした弓を	112,
うちおこしをするばあいもある	「打起し」をする場合もある	170,
うちおこすことがよい	打起こすことがよい	112,
うちこみ	打ち込み	95,133,
うちだけ	内竹	191,

うつくしいえんけい	美しい円形	32,
うつくしいきよくせん	美しい曲線	31,32,
うつくしいもの	美しいもの	32,
うつくしく	美しく	21,22,
うでけい	腕時計	189,
うでをきょうぶにみっちゃやくさせ	腕を胸部に密着させ	92,
うてんのばあい	雨天の場合	132,
うなじ	項	↓
うなじがじょうほうにのび	項が上方に伸び	117,
うなじをのばし	(項を伸ばし)	71,
うなじをまっすぐにのばし	項を真直ぐに伸ばし	65,66,68,108,
うのくび	「鵜の首」	111,
うのようざぶろう	宇野要三郎	16,51,
うらはぎ	末矧	192,
うらはず	末弭	190,
うらはずにちかいそり	末弭に近い反り	32,
うらはずにちかいへんはじよせいてき	末弭に近い辺は女性的	32,
うらはずにてひきよせ、つるをとる	末弭にて引き寄せ、弦をとる	173,
うらはずにむかい	末弭に向かい	89,
うらはずはからだのぜんめんちゅうおう	末弭は体の前面中央	88,
うらはずはからだのちゅうおう	末弭は体の中央	86,135,138,
うらはずはゆかうえ10センチ	末弭は床上一〇センチ	89,163,
うらはずはゆかにつく	末弭は床につく	89,
うらはずをからだのちゅうおうめどおり	末弭を体の中央目通りの高さ	177,178,
うらはずをゆかにつかないよう	末弭を床につかないよう	74,
うらはずをゆかにつけ	(末弭を床につけ)	182,183,
うわおし	上押し	124,
うわせきいた	上関板	190,
うわづる	上弦	190,
うわなりぶし	上成節	191,
うわなりぶしがからだのちゅうしん	上成節が体の中心	109,
うわはず	(上弭)	190,
うわまえのえりぎわ	上前の襟ぎわ	94,
うわまえのふところをくつろげ	上前の懐をくつろげ	92,
うんこうけいかくにしたがい	運行計画に従い	168,
え		
えいきょう	影響	29,185,
えじぶと	エジプト	24,
えじぶとじん	エジプト人	27,
えしゃじょうり	「会者定離」	120,
えちおぴあ	エチオピア	24,
えどじだいのぶけ	江戸時代の武家	34,
えもんをととのえ	衣紋を整え	94,95,136,139,140,
えり	襟	↓
えりぎわからいれ	襟ぎわからいれ	94,
えりくびがすいてみえる	襟首がすいて見える	81,84,
えりもとをくつろげる	襟元をくつろげる	91,
えんきよりでは	遠距離では	187,
えんきよりにとぶや	遠距離に飛ぶ矢	124,
えんそう	円相	↓
えんそうとなる	円相となる	179,
えんそうにかまえる	円相に構える	95,
えんそうをたもちつつやつがえ	円相を保ちつつ矢番え	134,
えんてき	遠的	↓
えんてききょうぎにしょうするまと	遠的競技に使用する	188,
えんてきせんよう	遠的専用	124,
えんてきともいう	遠的ともいう	187,
えんてきのしゃほう	遠的の射法	123,
えんてきのばあい	遠的の場合	124,
えんぶ	演武	186,
えんぶのばあいのどうさ	演武の場合の動作	168,
えんぶかい	演武会	132,
えんぶ、きょうぎのばあいはしやいで	演武、競技の場合は射位で	180,
えんぶ、きょうぎのばあいはななめぜん	演武、競技の場合は斜め前方	180,

えんぶさせていただきます	演武させていただきます	87,
えんぶとうのばあい	演武等の場合	168,
えんぶまたはきょうぎのばあい	演武または競技の場合	168,
お		
おいげん・へりげる	オイゲン・ヘリゲル	44,
おうのぶき	「王の武器」	27,
おうべいのぶんかこく	欧米の文化国	30,
おうやしゅしょうのもつゆみ	王や首将の持つ弓	27,
おうようどうさ	応用動作	168,
おおぎがたにふみひらく	扇形に踏み開く	106,
おおまえ	大前	164,
おおまと	[大的]	187,
おおまとしやれい	大的射礼	131,165,
おおまとしやれいはげんそくおくがい	「大的射礼」は原則屋外	131,
おおまとのちゅうしん	大的の中心	188,
おおまとのつりかた	大的の吊り方	188,
おおまとのはんぶん	大的の半分	187,
おおまとはげんそくおくがい	大的は原則屋外	165,
おおまとをつるわく	大的を吊る枠	188,
おがさわら	小笠原	127,
おがさわらりゅう	小笠原流	127,
おくがいでおこなうもの	屋外で行うもの	165,
おくがいではそのきよする	屋外では蹲踞する	153,
おくがいでとはちしやれい	屋外では立射礼	132,
おくがいにおけるぎょうしゃのいぶつ	屋外における行射の遺物	189,
おくがいにとんだとき	屋外に飛んだとき	173,
おくがいにはでない	(屋外には出ない)	173,
おくがいのばあい	屋外の場合	146,
おくないでは	屋内では	132,
おしだいもくひけさんぶいち	押大目引三分一	113,
おしで	(押手)	118,
おしでにたいしてはかって	押手に対しては勝手	115,
おしではややたかく	押手はやや高く	124,
おしでをあげる	押手をあげる	124,
おっとりぶし	(押取節)	180,192,
おとこしぶし	乙腰節	191,
おとや	乙矢	96,
おとや	(乙矢)	192,
おとやのいたつきをもって	乙矢の板付を持って	96,
おとやのつるねでにゅうじょう	乙矢の弦音で入場	171,
おとやははねをまとのほう	乙矢は羽を的の方	95,
おとやはひだり	乙矢は左	144,146,
おとやをいおわたたら	乙矢を射終わったら	157,
おとやをいおわれば	乙矢を射終われば	157,
おとやをうちこみ	乙矢を打ち込み	133,137,
おとやをつがえ	乙矢を番え	157,159,
おとやをつがえ、いはなつ	乙矢を番え、射放つ	136,137,142,164,
おとやをつがえる	乙矢を番える	164,
おとやをぬきとり	乙矢をぬきとり	164,
おとやをみわけながら	乙矢を見分けながら	94,
おとやをもったままたいしゅつ	乙矢を持ったまま退出	184,
おやゆび	拇指	→ぼし
おんこちしんのみをあげる	温故知新の実をあげる	130,
か		
かい	会	104,115,
かいかんせいされると	「会」が完成されると	120,
かいからはなれといったふうちょう	「会から離れ」といった風潮	57,
かいからはなれにうつるばあい	会から離れに移る場合	55,
かいでちからがていしするののでいけなし	会で力が停止するののでいけない	124,
かいではちからがまとまり	会では力がまとまり	120,
かいとはなれは	「会」と「離れ」は	120,
かいにいたったときにけつてい	「会」に至ったときに決定	99,
かいにおいてたてよこじゅうもんじ	「会」において縦横十文字	115,
かいにおいては、やはたたく	「会」においては、矢は正しく	119,

かいにとうたつするため	「会」に到達するため	115,
かいにはいったとき	「会」にはいったとき	117,
かいはかたちのうえでは	「会」は形の上では	115,
かいはしんりてきにはふどうしのれん	「会」は心理的には不動心の連続	119,
かい・はなれにおおきくえいきょう	「会」「離れ」に大きく影響	112,
かい・はなれにおけるころのあんてい	「会」・「離れ」における心の安定	101,
かいをこうせいするじょうけん	「会」を構成する条件	115,
かいをしめたもの	「会」を示したもの	54,
かいにおいてじゅうようなこと	会において重要なこと	115,
かいをこうせいするじょうけん	会を構成する条件	115,
かいいんかくいのりかい	会員各位の理解	15,
かいいんしよし	会員諸氏	14,
がいかんてきにはかたちがつままっている	外観的には形がつままっている	114,
がいこくきゅう	外国弓	21,
がいこくじんからりかい	外国人から理解	36,
がいこくじんにはりかいされない	外国人には理解されない	36,
がいこくでは	外国では	25,
がいこくにしめす	外国に示す	36,
がいこくのきゅうしゃ	外国の弓射	38,
がいこくのしゃほうは	外国の射法は	44,
がいこくのそれにひして	外国のそれに比して	35,
かいぞえ	介添え	149,
かいぞえがないばあい	介添えがない場合	174,
かいぞえがいるとき	介添えがいるとき	174,
かいぞえがとる	介添えがとる	174,
かいぞえがめだつこうどうはつつしむ	介添えが目立つ行動は慎む	151,
かいぞえそうごのあいだ	介添え相互の間	153,
かいぞえについてのころえ	介添えについての心得	150,
かいぞえのいち	介添えの位置	150,
かいぞえのころえ	介添えの心得	150,
かいぞえのさほう	介添えの作法	149,150,
かいぞえのしせい(そんきょ)といち	介添えの姿勢(蹲踞)と位置	150,
かいぞえのどうさ	介添えの動作	150,
かいぞえのばあい	介添えの場合	181,
かいぞえのほさをうけない	介添えの補佐を受けない	150,
かいぞえはさほうをよくしゅうれん	介添えは作法をよく修練	149,
かいぞえは、しゃしゆのかえゆみを	介添えは、射手の替弓を	180,
かいぞえは、しゃしゆのしよさをじゅくち	介添えは、射手の所作を熟知	150,
かいぞえは、しゃしゆのこうどうにちゅう	介添えは、射手の行動に注意	150,
かいぞえは、しゃしゆのななめぜんぼう	介添えは、射手の斜め前方	181,
かいぞえは、しゃしゆをちゅうしん	介添えは、射手を中心	151,
かいぞえは、しゃしゆをひきたてるよう	介添えは、射手を引立てるよう	151,
かいぞえは、つねにしゃしゆのかげ	介添えは、常に射手の陰	151,
かいぞえはともにそんきょ	介添えはともに蹲踞	153,
かいぞえもひつよういじょうにこうどうし	介添えも必要以上に行動しない	150,
かいぞえをつけるばあい	介添えをつける場合	149,
かいぞえをつけなかった	介添えをつけなかった	154,
かいぞえをもちい	介添えを用い	154,
かいていぞうほ	改訂増補	9,16,18-1,130,
かいていぞうほにあたって	改訂増補にあたって	15,
がいてきにはすきがなく	外的には隙がなく	58,
がいぶてきなしんかだけ	外部的な進化だけ	38,
がいてきなしんか	外的な進化	37,
がいてきをおどす	外敵を威す	128,
かいぼうがくてきなけんきゅうもようきゅう	解剖学的な研究も要求	46,
がいめんからのかたち	外面からの形	34,
がいめんてきなものから	外面的なものから	47,
かえゆみについて	替弓について	181,
かえゆみのよういのないばあいのたいど	替弓の用意のない場合の態度	184,
かえゆみをさほうにしたがい	替弓を作法にしたがい	180,
かえゆみをよういする	替弓を用意する	181,
かがくてきでなくてはならない	科学的でなければならない	46,
かがくてきなうらづけ	科学的な裏づけ	46,
かがくてきなけんきゅう	科学的な研究	42,

かがくてきにせいさく	科学的に製作	25,
かかと	踵	↓
かかとはひらかなないようにつけ	踵が開かないようにつけ	69,
かかとはゆかをはなれないよう	踵が床を離れないよう	74,
かかとはちよっかくにTじがたにかけ	踵に直角にT字形にかけ	76,
かかとはつけない	踵はつけない)	70,
かかとはよせるきもち	踵は寄せる気持ち	68,
かかとはつけ	踵をつけ	72,73,
かかとはゆかにつける	踵を床につける	72,
かがむどう	屈む胴	109,
かがむにつれ	かがむにつれ	80,
かかりどう	懸り胴	107,
かかどう	懸る胴	109,
かくしゅぶどうごうどうのえんぶかい	各種武道合同の演武会	132,
かくせいせいねんにとって	学生青年にとって	34,
かくりゅうかくはのちょうしょ	各流各派の長所	15,
かけぐちじゅうもんじ	(懸口十文字)	110,
かけぶし	掛節	191,
かこにおいて	過去において	36,
かしくまりつつしむきもち	畏まり慎む気持ち	172,
かしんじょうたい	「下進上退」	176,
かしんじょうたいとは	下進上退とは	176,
かすみまと	霞的	187,
かすみまとのきかく	霞的の規格	187,
かた	肩	100,117,
かたのたかさともきわらのちゅうしん	肩の高さと巻藁の中心	144,
かたはしたにしずむ	肩は下に沈む	111,
かたをきてんとして	肩を基点として	117,
かたをたいらにし	肩を平らにし	89,
かたをらくにする	肩を楽にする	67,68,
かだい	課題	13,17,
かたからず	固からず	89,
かたち	形	↓
かたちがしんぽてき	形が進歩的	26,
かたちがとまっているように見える	形がとまっているように見える	114,
かたちでいえばざんしん	形でいえば「残身」	121,
かたちのうえでは、めづかいを	形の上では、目づかいを	135,
かたちばかりにとらわれては	形ばかりにとらわれては	63,
かたとしてのこっている	型として残っている	165,
かたほうのあしをよせきざ	片方の足を寄せ跪坐	172,
かちかんのたようせい	価値観の多様性	18-2,
かちまけ	勝負	36,
かっきてきせいこう	画期的成功	15,
がっこうにおけるきゅうどうのいぎ	学校における弓道の意義	17,
かって	勝手	115,
かって	(勝手)	115,
かっちゅう	甲冑	38,
かつどうてきなどうさへうつる	活動的な動作へ移る	108,
かてい	過程	11,
かはんしんをあんていさせ	下半身を安定させ	106,117,
かふくぶともものつけねとをみっちゃく	下腹部と腿のつけ根とを密着	68,
かまえがくずれないように	構えがくずれないように	75,
かまえである	構えである	69,
かまえもみだれないようにちゅうい	構えも乱れないように注意	79,
かまぼこがた	蒲鉾形	31,
かみきりづめどう	上切詰籐	190,
かみざ	上座	→じょうざ
かめいにかかわるいちだいじ	「家名にかかわる一大事」	34,]
からだ	体	↓
からだそらないよう	体が反らないよう	68,
からだまとのほうにかたむくもの	(体が右の方に傾くもの)	109,
からだみぎにかたむくもの	(体が右に傾くもの)	109,
からだひくことがかんよう	体で引くことが肝要	114,
からだところとのかんけい	体と心との関係	63,

からだどゆみやがいったいとなる	体と弓矢が一体となる	89,
からだどゆみ・やがへいこう	体と弓・矢が平行	113,
からだのうちがわにいれること	体の内側に入れること	69,
からだのかまえ	体の構え	↓
からだのかまえがくずれたり	体の構えがくずれたり	90,
からだのかまえがくずれぬように	体の構えがくずれぬように	145,
からだのかまえがくずれやすい	体の構えがくずれやすい	178,
からだのかまえ、どうさなどがけいし	体の構え、動作などが軽視	57,
からだのかまえはさゆうにはつよい	体の構えは左右には強い	107,
からだのかまえはぜんごにはつよい	体の構えは前後には強い	107,
からだのかまえやききよんたい	体の構えや起居進退	58,62,
からだのかまえやどうさとうについて	体の構えや動作等について	130,
からだのかまえをくずさぬよう	体の構えをくずさぬよう	94,
からだのかまえをつくる	体の構えを作る	108,
からだのじゅうしんのもっともあんでい	体の重心の最も安定したもの	109,
からだのぜんたいのはたらき(はり)	体の全体の働き(張り)	114,
からだのちゅうおうにたてる	体の中央に立てる	138,139,163,
からだのちゅうおうにたてつるをかえし	体の中央に立て弦を返し	148,
からだのちゅうおうにたて、はだをいれ	体の中央に立て、肌をいれ	140,
からだのちゅうおうにたて、はだをぬぎ	体の中央に立て、肌をぬぎ	137,
からだのちゅうおうにたて、ひざをいか	体の中央に立て、膝を生かす	136,
からだのちゅうおうにたて、ひだりてを	体の中央に立て、左手を腿のつけ根	136,
からだのちゅうおうにたてやをつがえる	体の中央に立て矢を番える	183,
からだのととのえかた	体の整え方	58,
からだのなかすじからさゆうに	体の中筋から左右に	120,
からだのみぎわきにはこぶ	体の右脇に運ぶ	183,
からだはてんちさゆうにしんちょう	体は天地左右に伸張	122,
からだをただしくてこしをすえ	体を正しくして腰を据え	89,
からだをゆみのなかにわってはい	体を弓の中に割って入る	114,
かりよくによってまっすぐにしたもの	火力によって真直ぐにしたもの	185,
かわいたぬのでふく	乾いた布で拭く	184,
かわかす	乾かす	186,
かんがえかたもこうじょう	考え方も向上	15,
かんかくがにめーとるであれば	間隔が二メートルであれば	175,
かんかくはてのひらをたてしてはいくら	間隔は掌を縦にしてはいくら	144,
かんかくはみずからくふう	間隔はみずから工夫	176,
かんかくをたもつ	間隔を保つ	175,
かんきゅう・けいちょうよろしきをえ	緩急・軽重よろしきをえ	64,
かんきゅうよろしきをえ	緩急よろしきをえ	153,
かんこう	刊行	12,13,14,15,
かんしゃ	感謝	14,
かんしゃのきもちをもって	感謝の気持ちをもって	87,
かんしゃのねんをあらわす	感謝の念を表わす	86,
かんしょう	鑑賞	32,
かんせつ	関節	100,
かんそうしたところ	乾燥したところ	186,
かんそうしたばしょ	乾燥した場所	185,
かんてきじょ	看的所	193,
かんてつりよく	貫徹力	110,
かんどうをあたえる	感動を与える	59,
かんねん	観念	26,27,28,
かんよう	肝要	17,75,119,157,158,162,168,172,175,176,177,185,186,190,
かんれんせい	関連性	27,
き		
き	木	191,
き	気	↓
きあい	気合い	62,155,157,162,
きあいにのり	気合いにのり	75,
きあいのこもったまま	気合のこもったまま	122,
きあいのじゅうじつ	気合いの充実	155,157,
きあいのはつどう	気合の発動	120,121,
きあいのはつどうのげんどうりよく	気合いの発動の原動力	102,
きあいのはつどうをうながす	気合いの発動をうながす	118,
きあいをみださない	気合いを乱さない	182,

きがまえ	気構え	57,
きはわざにゆうせんする	気は技に優先する	119,
きもちをおちつけ	気持ちを落ち着け	70,
きをそそぐ	気をそそぐ	64,
きかいぶんめいのしんぽ	機械文明の進歩	25,
きかく	企画	12,
きかくはずのとおり	規格は図の通り	187,
きがじゆくす	機が熟す	120,
ききょしんたい	起居進退	↓
ききょしんたいする	起居進退する	157,
ききょしんたいにもすきがなく	起居進退にも隙がなく	58,
ききょしんたいにもっともたいせつ	起居進退に最も大切	63,
ききょしんたいは、きくにしがたい	起居進退は、規矩に従い	59,
ききょしんたいは、こころにめいじ	起居進退は、心に銘じ	62,
ききょしんたいをれいほうにしたがって	起居進退を礼法に従って	128,
きけんぼうし	危険防止	189,
きぐとしてたんじゆん	器具として単純	23,
きくにしがたい	規矩に従い	59,84,189,
きこう・そしきのへんか	機構・組織の変化	35,
ぎこうにはしり	技巧に走り	57,
きざ	跪坐	61,69,72,
きざし	跪坐し	142,153,157,159,168,172,
きざしたしせい	跪坐した姿勢	88,
きざしたまま	跪坐したまま	156,162,
きざしてまつ	跪坐して待つ	158,171,
きざしてゆう	跪坐して揖	169,
きざしてゆみをと	跪坐して弓を取り	173,
きざしてわきしょうめんにもむきをかえ	跪坐して脇正面に向きを変え	182,
きざしはじめるとどうじにたつ	跪坐しはじめると同時に立つ	158,162,169,
きざしはだをいれる	跪坐し肌をいれる	136,143,
きざしながらゆみをたて	跪坐しながら弓を立て	142,
きざし、ゆうをおこなう	跪坐し、揖を行う	133,136,141,143,
きざする	跪坐する	137,148,152,154,177,
きざのかまえ	跪坐の構え	78,
きざのこうさんしょう	跪坐の項参照	73,
きざのしせいから	跪坐の姿勢から	77,
きざのしせいからたつ	跪坐の姿勢から立つ	71,
きざのしせいのばあい	跪坐の姿勢の場合	89,
ぎしき	儀式	27,
ぎしゃ	戲射	127,
きしゅうはん	紀州藩	53,
きじゆくし、じまんのうえはっする	機熟し、自満の末に発する	119,
きじゆつ	記述	16,
ぎじゆつにのみこうでい	技術にのみ拘泥	57,
ぎじゆつにはりんりはない	技術には倫理はない	38,
ぎじゆつをしゆたい	技術を主体	38,
きじゆん	基準	12,83,
きじゆんのふかさ45ど	基準の深さ45度	81,
きじゆんのれい(45ど)	基準の礼(45度)	85,147,
きそく	氣息	73,
きそくをいう	氣息をいう	101,
きそくをととのえ	氣息を整え	111,136,
きそくをととのえる	氣息をととのえる	108,
きそくをととのえる	氣息を整える	135,
きそたいせいをほじ	基礎体勢を保持	109,
きそりろん	基礎理論	9,
きたけけつごう	木竹結合	25,
きとしたもの	企図したもの	13,
きのうをしっておく	機能を知っておく	185,
きはくをたたえ	氣迫をたたえ	115,
きはんとなる	規範となる	12,15,130,
ぎほう	技法	111,
ぎほうとしんぼうがいったい	技法と心法が一体	47,
きほん	基本	↓

きほんたい	基本体	57,61,
きほんたい(たいはい)をじゅうし	基本体(体配)を重視	15,
きほんたいとそのどうさ	基本体とその動作	62,
きほんたいのがいよう	基本体の概要	59,
きほんたいのひつようせい	基本体の必要性	57,
きほんたいのようしき	基本体の様式	60,
きほんたいけい	基本体型	99,100,
きほんたいけいさんしょう	基本体型参照	117,
きほんたいけいのちゅうおう	基本体型の中央	55,
きほんたいけいをけんじ	基本体型を堅持	121,
きほんてきどうさ	基本的動作	60,70,
きほんどうさ(たいはい)	基本動作(体配)	101,
きほんにてっし	基本に徹し	129,
きほんのしせい	基本の姿勢	60,61,65,
きほんのどうさ	基本の動作	60,61,62,
きほんをたいとく	基本を体得	129,
きやたけがおも	木や竹が主	23,
きゅうかい	弓界	46,
きゅうかいのきばんそう	弓界の基盤層	12,
きゅうかいのだんかい	弓界の段階	12,
きゅうぎ	弓技	38,
きゅうぎのあんてい	弓技の安定	51,
きゅうぎのしんこ	弓技の審固	52,
きゅうぐのていれについて	弓具の手入れについて	184,
きゅうぐのめいしょう	弓具の名称	190,
きゅうしゃ	弓射	57,
きゅうしゃそのものがみんしゅか	弓射そのものが民主化	35,
きゅうしゃにあらわれる	弓射に表われる	35,
きゅうしゃにおいて	弓射において	45,
きゅうしゃにおけるしひょう	弓射における指標	44,
きゅうしゃにしゅよう(りんり)	弓射に主要(倫理)	39,
きゅうしゃのきほん	弓射の基本	99,
きゅうしゃのきょくち	弓射の極致	115,
きゅうしゃのげんしてきせいかく	弓射の原始的性格	24,
きゅうしゃのないようもしんぽ	弓射の内容も進歩	15,
きゅうしゃのもくてき	弓射の目的	60,
きゅうしゃはまとをいるもの	弓射は的を射るもの	45,
きゅうしゃもかくあらねば	弓射もかくあらねば	58,
きゅうしゃをおこなうばあい	弓射を行う場合	86,102,
きゅうしゃをたいしょう	弓射を対象	46,
きゅうしゃをつうしておしえられる	弓射を行う場合通じて教えられる	46,
きゅうしゃをみるめもこえ	弓射を見る目も肥え	15,
きゅうじゅうど	九十度	77,79,
きゅうじゅうどにはこび	九十度に運び	77,
きゅうじゅうどのかくど	九十度の角度	79,
きゅうじゅうどのせんじょう	九十度の線上	79,
きゅうじゅうつ	弓術	38,127,
きゅうすん	九寸	187,
きゅうせんにたいするすうはいかんねん	弓箭に対する崇拜観念	31,
きゅうせんをてんぴょう	弓箭を「天表」	31,
きゅうたいがいったいとなる	弓体が一体となる	114,
きゅうたいのざんぞんぶつ	弓体の残存物	23,
きゅうたいのてんちのじゅうごう	弓体の天地の柔剛	32,
きゅうたいのび	弓体の美	31,32,
きゅうたいをもってぶしのとつき	弓体をもって武士の徳器	23,
きゅうどう	弓道	↓
きゅうどうい	弓道衣	147,162,164,189,
きゅうどういのばあい	弓道衣の場合	137,140,143,146,
きゅうどうかい	弓道界	18-1,
きゅうどうかいのだいじぎょう	弓道界の大事業	15,
きゅうどうがそくおう	弓道が即応	13,
きゅうどうきょうぎにもすぐれたせんしゅ	弓道競技にもすぐれた選手	37,
きゅうどうきょうはん	弓道教範	129,
きゅうどうきょうほん	弓道教本	13,18-1,18-2,133,

きゆうどうきょうほんがかんこう	弓道教本が刊行	130,
きゆうどうきょうほんだいいっかん	弓道教本第一巻	9,
きゆうどうきょうほんだいいっかん	「弓道教本」第一巻	15,130,
きゆうどうきょうほんだいいっかん	『弓道教本』第二巻・第三巻	105,
きゆうどうきょうほんのかんこう	「弓道教本」の刊行	12,
きゆうどうしどうしゃのきょうてい	弓道指導者の教程	18-2,
きゆうどうじょうがせまい	弓道場が狭い	175,
きゆうどうしょうじん	弓道精進	51,
きゆうどうじょうのめいしょう	弓道場の名称	192,
きゆうどうじん	弓道人	18-1,18-2,
きゆうどうじんのさんこうしりょう	弓道人の参考資料	12,
きゆうどうじんのしゅうれんのきはん	弓道人の修練の規範	18-1,
きゆうどうじんのしゅうれんのよきしん	弓道人の修練の良き指針	18-2,
きゆうどうじんのせいちょう	弓道人の成長	9,
きゆうどうじんのせきにな	弓道人の責任	36,
きゆうどうそのものをたのしむ	弓道そのものを楽しむ	34,
きゆうどうということば	弓道ということば	127,
きゆうどう(どうぎてき)というみち	弓道(道義的)という道	38,
きゆうどうとせいかつ	弓道と生活	45,
きゆうどうのありかた	弓道のあり方	127,
きゆうどうのいぎ	弓道の意義	17,
きゆうどうのかた	弓道の形	127,129,
きゆうどうのじょうしきじん	弓道の常識人	35,
きゆうどうのしゅうれん	弓道の修練	17,
きゆうどうのたいこう	弓道の大綱	12,13,
きゆうどうのだいぶぶん	弓道の大部分	35,
きゆうどうのとくちょう	弓道の特長	103,
きゆうどうのはってんにともない	弓道の発展に伴い	130,
きゆうどうのふかさ	弓道の深さ	36,
きゆうどうのふたつのめん	弓道の二つの面	45,
きゆうどうのほんし	弓道の本旨	128,
きゆうどうのみんなしゅか	弓道の民主化	35,
きゆうどうのもくてき	弓道の目的	57,
きゆうどうのもくひょう	弓道の目標	34,
きゆうどうのようてい	弓道の要諦	17,
きゆうどうのりんりせい	弓道の倫理性	35,37,
きゆうどうはぜんしんする	弓道は前進する	37,
きゆうどうはたいいくやけんこうのため	弓道は体育や健康のため	17,
きゆうどうようそく	弓道要則	129,
きゆうりき	弓力	100,
きゆうは	弓弰	↓
きゆうはをとる	弓弰をとる	137,138,139,140,143,146,
きゆうはをにぎり	弓弰を握り	88,178,
きゆうはをもったまま	弓弰をもったまま	142,
きゆうはをもってうけとる	弓弰をもって受け取る	180,
きゆうはをもってわたしてはいけない	弓弰をもって渡してはいけない	180,
きゆうはのした	弓弰の下	181,
きゆうはのしたをもち	弓弰の下をもち	179,
きょうか	教歌	119,
きょうかくをとりにやすく	仰角をとりにやすく	123,
きょうぎ	競技	36,132,186,189,
きょうぎきそくさんしょう	競技規則参照	168,188,
きょうぎのいきをだっしたじゃどう	競技の域を脱した邪道	36,
きょうぎのばあい	競技の場合	168,174,180,182,
きょうぎのみをもくてき	競技のみを目的	128,
きょうぎはしょうぶ	競技は勝負	36,
きょうけいけいあいのようぎをそなえ	恭敬敬愛の容儀をそなえ	59,
きょうけい、しんあいのこころ	恭敬、親愛の心	79,
きょうさん	協賛	14,
きょうしゃ	競射	171,
ぎょうしゃ	行射	64,
ぎょうしゃのこころえ	行射の心得	172,
きょうじゃくのちようせい	強弱の調整	32,
きょうじゃくのちようわ	強弱の調和	32,

きょうしゆくのをひょうし	恐縮の意を表し	173,
きょうち	境地	9,112,
きょうちよう	強調	16,
きょうてい	教程	9,
きょうとのていじそうかい	京都の定時総会	14,
きょうふ	恐怖	119,
きょうぶ	胸部	↓
きょうぶ・はいぶのきんこつをしゅたい	胸部・背部の筋骨を主体	115,
きょうぶからはいぶにすりまわす	胸部から背部にすり回す	94,
きょうぶにつけ	胸部につけ	114,
きょうほん	教本	↓
きょうほんせいてい	教本制定	15,
きょうほんせいていいらいすうじゅうね	教本制定以来数十年	15,
きょうほんだいいっかんのほうしん	教本第一巻の方針	16,
きょうほんだいに・さんかん	教本第二・三巻	111,
きょうほんである	教本である	9,
きょうほんではしょうりやく	教本では省略	165,
きょうほんとしてのかち	教本としての価値	9,
きょうほんないようをじゅうじつ	教本内容を充実	16,
きょうほんのふきゅうをめざし	教本の普及を目指し	9,
きょうほんのもくてき	教本の目的	17,
きょうほんもさらにしゅうせい	教本もさらに修正	17,
きょうほんをつくるにあたって	教本を作るにあたって	15,
きょうよう	教養	43,
きょうようがおもてにあらわれ	教養が表に現われ	80,
きょうりよく	協力	↓
きょうりよくすることがかんよう	協力することが肝要	168,
きょうりよくとしじ	協力と支持	13,
きょうりよくをねんがん	協力を念願	18,
きよくせんにじゅうごうがある	曲線に柔剛がある	32,
きょたいとなる	虚体となる	63,101,
きより	距離	75,175,
きより・かんかくについて	距離・間隔について	175,
きより・かんかくはみずからくふう	距離・間隔はみずから工夫	176,
きよりのえんきん	距離の遠近	120,
きよりをたもち	距離を保ち	181,
きよりをひろくさだめてこうどう	距離を広く定めて行動	175,
ぎりこいれ	ぎりこ入れ	189,
きりよく	気力	↓
きりよくのじゅうじつ	気力の充実	↓
きりよくのじゅうじつである	気力の充実である	118,
きりよくのじゅうじつにつとめる	気力の充実につとめる	119,
きりよくのじゅうじつによって	気力の充実によって	118,121,
きりよくのじゅうじつをはかる	気力の充実をはかる	103,
きりよくのじゅうじつをもたらず	気力の充実をもたらず	102,
きりよくのすいたい	気力の衰退	59,
きりよくのはたらき	気力の働き	119,
きりよくをじゅうじつ	気力を充実	109,
ぎ・れいをくわえた	「義・礼」を加えた	39,
ぎれいのほんしにはんする	儀礼の本旨に反する	130,
きんこつ	筋骨	↓
きんこつ=きんにく	筋骨=筋肉	115,
きんこつとかんせつ	筋骨と関節	100,
きんこつをもって	筋骨をもって	54,
きんせい	近世	129,
きんぞくせいのも	金属製のもの	25,
きんぞくせいのものでせいさく	金属製のもので製作	25,
きんだいてきなげいじゅつてきかち	近代的な芸術的価値	32,
きんたいはくしよく	金体白色	55,
きんだいぶんめいのしょさん	近代文明の所産	25,
きんてき	近的	186,187,
きんにくのはたらき	筋肉の働き	115,
くぎょうするきゅうどう	苦行する弓道	45,

くぎょうどう	苦行道	45,
くすね	「くすね」	184,186,
くすりゆび	薬指	88,
くすりゆびでぼしをおさえ	薬指で拇指を押え	109,
くすりゆびとこゆび	薬指と小指	95,96,
くち	口	↓
くちのあたり	口のあたり	114,
くちのせん	口の線	114,
くちはかるくとじ	口は軽く閉じ	67,68,
くちわり	口割り	114,116,
くったい	屈体	↓
くったいのかくど	屈体の角度	83,86,
くったいのこうてい	屈体の高低	82,
くなんのば	苦難の場	12,
くび	首	↓
くびがおれ	首が折れ	81,84,
くびがり	首狩り	27,
くびすじとや	首すじと矢	101,
くびをまげ	首をまげ	87,
くものかね	蜘蛛の曲尺	102,
くらいにおうじ	位に応じ	60,
ぐんこうのあつたゆみや	軍功のあつた弓矢	23,
ぐんこうのしょうちょう	軍功の象徴	23,
ぐんじんには	軍陣には	30,
くりこみ	繰り込み	95,
くんし	「君子」	43,
くんしのみち	君子の道	40,
くんしはあらそわず	君子は争わず	43,

け

けいか	(経過)	15,
けいかいにしてみょうみ	軽快にして妙味	121,
けいけんやちしき	経験や知識	103,
けいこ	稽古	189,
けいこようのまきわら	稽古用の巻藁	189,
けいしゆく	慶祝	132,
げいじゆつ	芸術	↓
げいじゆつてき	芸術的	22,
げいじゆつてきかち	芸術的価値	31,32,
げいじゆつ一びじゆつ・ぶんがく	芸術—美術・文学	43,
けいたいのうつくしさ	形態の美しさ	21,
けいたいひん	携帯品	189,
けいちよう	軽重	64,149,
けいつい	頸椎	100,
けいとう	系統	23,
けいみょう	軽妙	121,
けいみょうなはなれ	軽妙な離れ	121,
けつだんりよく	決断力	119,
けつていてきしゆんかん	決定的瞬間	118,
けむりがたちのぼる	煙が立ちのぼる	112,
けものりょうようのおおきなゆみ	獸獵用の大きな弓	29,
けんいしゃ	権威者	132,
けんきゆう	研究	12,37,
けんきゆうのこんなんなもんだい	研究の困難な問題	23,
けんこうのぞうしん	健康の増進	17,
けんこうのため	健康のため	17,46,
けんこうてき	健康的	34,
げんざいいっぱん	現在一般	187,
げんざいのにほんのゆみ	現在の日本の弓	21,29,
げんざいのもんだい	現在の問題	13,
げんざいのゆみは	現在の弓は	184,
げんざいはなみほこがひょうじゆん	現在は並鉾が標準	29,
げんざいよりはながくなかった	現在よりは長くなかった	29,
けんさんでんしょう	研鑽伝承	130,
げんしじだいから	原始時代から	22,

げんしじんるい	原始人類	24,26,
げんしてき	原始的	21,
げんしてきけいたい	原始的形態	24,
げんしてきせいかく	原始的性格	24,
げんしてきなかたち	原始的な形	25,
げんしてきなきたけつごう	原始的な木竹結合	25,
げんしぶんか	原始文化	26,
げんしみんぞくのなかで	原始民族の中で	21,
けんじょう	謙讓	57,
げんそく	原則	123,164,165,169,174,175,180
げんそくてきにはいっち	原則的には一致	176,
げんそくとしてはさんにな	原則としては三人	133,
げんだい	現代	↓
げんだいきゆうどうのしひょう	現代弓道の指標	15,
げんだいきゆうどうのしゅうれんのがん	現代弓道の修練の眼目	16,
げんだいきゆうどうのふきゆう	現代弓道の普及	18-1,
げんだいきゆうどうのほんしつ	現代弓道の本質	58,
げんだいじん	現代人	35,
げんだいじんのしんりをひはん	現代人の心理を批判	35,
げんだいせい	現代性	34,
げんだいにおけるにほんきゆうどう	現代における日本弓道	9,
げんだいのきゆうかい	現代の弓界	13,
げんだいのきゆうしゃ	現代の弓射	60,
げんだいのきゆうどう	現代の弓道	34,37,45,
げんだいのきゆうどうじんにりかい	現代の弓道人に理解	11,
げんだいのきゆうどうじんのさんこうしりょ	現代の弓道人の参考資料	12,
げんだいのせいかつにつながり	現代の生活につながり	15,
けんとう	検討	17,
げんにつつしむ	厳に慎む	151,
げんみつにいえば	厳密にいえば	34,
けんめいのどりよく	懸命の努力	13,
こ		
こう	靠	67,
こうえきほうじん	公益法人	18-1,
こうえきざいだんほうじん	公益財団法人	18-2,
こうおんによわく	高温に弱く	184,
こうきなせいじょう	高貴な性情	27,
こうし	孔子	39,
こうしのしそ	孔子の思想	41,
ごうじゃく	剛弱	185,
ごうじゃくをたもつ	剛弱を保つ	185,
ごうしゅれい	合手礼	82,
こうじょうしんぽ	向上進歩	130,
ごうせいじゅしをせつちやくざい	合成樹脂を接着材	184,
こうせいせい	公正性	18-1,
こうたい	後退	157,
こうたいしてほんざにきざ	後退して本座に跪坐	135,136,
こうたいする	後退する	173,
こうたいするとき	後退するとき	175,
こうたいちゅうこうほうへのまわりかた	後退中後方への回り方	76,
こうだいなどうじょう	広大な道場	175,
こうでい	拘泥	57,
こうどうがいったい	行動が一体	155,
こうどうする	行動する	176,
こうどうをおこす	行動をおこす	176,
ごうとじゅう	剛と柔	32,
こうどのりろん	高度の理論	12,
こうはい	後輩	82,
こうへいせい	公平性	18-1,
こうほうにまわるばあい	後方に回る場合	75,76,
こうほうよりすすむ	後方より進む	180,
こうほうよりわたすのがげんそく	後方より渡すのが原則	180,
ごうり	合理	↓
ごうりせいとひごうりせい	合理性と非合理性	46,

ごうりてきなもの	合理的なもの	60,
ごうりてきなめん	合理的な面	46,
ごうりゆうのみち	合流の道	127,
ごえいし	御英姿	22,
ごかしよのじゅうもんじ	五個所の十文字	100,
ごかんにいれない	股間にいれない	108,
こきゆう	古弓	23,
こきゆう(いきあい)	呼吸(息合い)	99,101,
こきゆう(きそく)にあわせて	呼吸(氣息)に合わせて	73,
こきゆうにあしのはこびをあわせる	呼吸に足のはこびを合わせる	75,
こきゆうにあわせておこなう	呼吸に合わせて行う	63,71,81,83,87,90,112,
こきゆうにあわせてしずかに	呼吸に合わせて静かに	112,
こきゆうにちゆうい	呼吸に注意	63,
こきゆう・まあいをとくにちゆうい	呼吸・間合いを特に注意	164,
こきゆうもいしきしない	呼吸も意識しない	64,
こきゆうやしせいにえいきよう	呼吸や姿勢に影響	102,
こきゆうをあわせる	呼吸を合わせる	75,
こきゆうをきょうおうさせることがたいせ	呼吸を協応させることが大切	135,
こきゆうをととのえ	呼吸を整え	109,
こきゆうをわすれる	呼吸を忘れる	102,
こくさい	国際	↓
こくさいせい	国際性	35,
こくさいてきであり	国際的であり	37,
こくさいてきなめん	国際的な面	35,
こくさいてきにならなければならない	国際的にならなければならない	36,
こくみんにふきゆう	国民に普及	128,
こごにある	古語にある	128,
こころ	心	47,
こころあるひとびとのみとめる	心ある人々の認める	11,
こころえ	心得	176,
こころがしゆうちゆう	心が集中	102,
こころがどうよう	心が動揺	103,
こころがけがひつよう	心がけが必要	189,
こころがけたい	心がけたい	189,
こころがけねば	心がけねば	168,176,
こころがける	心がける	151,162,182,
こころがまえ	心構え	58,
こころからなるきょうりよく	心からなる協力	13,
こころただしく	心正しく	79,
こころにおぼえて	心に覚えて	62,
こころにめいき	心に銘記	17,
こころにめいじ	心に銘じ	62,
こころのあんてい	心の安定	102,103,119,
こころのはたらきをひてい	心の働きを否定	35,
こころのもちかた	心の持ち方	58,
こころはじゅんしんせいちょう	心は純真清澄	128,
こころもちせまい	心持ち狭い	123,
こころをあんてい	心を安定	118,
こころをとらわれ	心をとらわれ	90,
こころをはなれて	心を離れて	63,
ごさんねんのえき	後三年の役	23,
こし	腰	64,100,117,
こしがおれる	腰が折れる	69,
こしがきかん	腰が基幹	64,
こしかけたしせい	腰かけた姿勢	61,66,
こしがぬける	腰がぬける	71,
こしがまがる	腰が曲がる	72,
こしがもと	腰が本	64,
こしでおくりこむ	腰で送り込む	72,
こしでたつ	腰で立つ	71,
こしにそってさしこんでわたす	腰に沿って差し込んで渡す	181,
こしのせん	腰の線	70,
こしのたかさ	腰の高さ	71,
こしのたんれん	腰の鍛練	115,

こしのへんとは	「腰の辺」とは	89,
こしのへんにおく	腰の辺におく	183,
こしのへんにつけたまま	腰の辺につけたまま	177,
こしのへんにとる	腰の辺にとる	88,89,143,
こしのへんにふくする	腰の辺に復する	95,
こしはからだのちゆうしん	腰は体の中心	64,
こしぼね	腰骨	89,
こしをうかす	腰を浮かす	81,
こしをきってたつ	腰を切って立つ	156,
こしをきめ	腰をきめ	72,
こしをきり	腰を切り	71,156,
こしをきりつつ	腰を切りつつ	71,79,177,
こしをきりながら	腰を切りながら	177,178,
こしをすえ	腰を据え	66,68,89,106,107,
こしをじく	腰を軸	73,81,83,
こしをちゆうしん	腰を中心	114,
こしをのばしつつ	腰を伸ばしつつ	70,
こしをふかくまわす	腰を深く回す	
こしをまげ	腰を曲げ	71,
こしをまっすぐにのばす	腰を真直ぐに伸ばす	77,
こしをまわしつつ	腰を回しつつ	75,
こしをまわす	腰をまわす	76,
ごしゃくさんずんくらのもの	(五尺三寸)位のもの	30,
ごしゃくにすん	五尺二寸	187,
ごしゃくろくすんいじょうのひと	(五尺六寸)以上の人	29,
ごじゅっけん	五十間	187,
ごじゅうじゅうもんじ	五重十文字	99,100,115,
ごしん	五身	108,
こせいてきせいかく	個性的性格	25,
こぞり	小反	190,
こぞりぶし	小反節	191,
こだいあっしりあじん	古代アッシリア人	27,
こだいのゆみや	古代の弓矢	23,
こだいぶんか	古代文化	22,
こだいぶんかじん	古代文化人	27,
こだいなんぼうぶんかせつ	古代南方文化説	27,
こだいにかえる	古代にかえる	37,
こだいにはっせい	古代に発生	37,
こだいにはもうすこしちようきゆう	古代にはもう少し長弓	29,
こだいにほんみんぞく	古代日本民族	23,
こだいのにほん	古代の日本	29,
こだいみんぞく	古代民族	22,
こだいみんぞくにもきょうつう	古代民族にも共通	23,
こだいみんぞくのあいだ	古代民族の間	24,
こだいみんぞくのゆみ	古代民族の弓	22,
こっかく	骨格	↓
こっかくがただしくみあわされる	骨格が正しく組合わされる	115,
こっかくとし	骨格とし	15,
こっかくにあった	骨格にあった	65,
こっかくのただしいありかた	骨格の正しいあり方	100,
こつき	克己	17,57,119,
ごどう	五胴	108,
ごどうのこうさんしょう	五胴の項参照	123,
こどものあそびのいっしゅ	子どもの遊びの一種	24,
ごにんだちのばあいよんばんのつるね	五人立の場合、四番の弦音で弓を立て	170,
こひも	小紐	192,
こぶし	拳	↓
こぶしにこうていなく	拳に高低なく	113,
こぶしのいちわかかわらない	拳の位置は変わらない	139,
こぶしはこしのへん	拳は腰の辺	88,
こぶしやてさきのちからのみ	拳や手先の力のみ	118,
ごぶ(べ)のつめ	五部の詰	118,
ごぶんけん	古文獻	16,51,
ごほんひご	(五本ひご)	191,

こまと	小的	186,187,
ごみちどう	五味七道	104,
こゆび	小指	↓
こゆびとくすりゆびでやをもつ	小指と薬指で矢を持つ	88,
こゆびをのばすこころもち	(小指を伸ばす心持ち)	66,
こりゆう、こほうをむしするのではなく	古流、古法を無視するのではなく	12,
こんご	今後	13,
こんごこくさいてき	今後国際的	36,
こんごのきゆうどう	今後の弓道	35,
こんごのきゆうどうのししん	今後の弓道の指針	15,
こんごのにほんのきゆうどうじん	今後の日本の弓道人	36,
こんごのもんだい	今後の問題	13,
こんせつにきじゆつ	懇切に記述	16,
こんぜんいったい	渾然一体	115,151,
こんぜんゆうわ	渾然融和	128,
こんぽんてきにへんかく	根本的に変革	16,
こんなんなこっかく	困難な骨格	79,
こんにち	今日	9,13,
こんにちにいたった	今日に至った	21,
こんにちのきゆうどうじん	今日の弓道人	35,
こんにちのきゆうどうのたいこう	今日の弓道の大綱	12,
こんにちのゆみ	今日の弓	36,

さ

ざ	坐	↓
ざしてのまわりかた(ひらきあし)	坐しての回り方(開き足)	61,77,
ざしてのまわりかた(れいーひだりまわ)	坐しての回り方(例一左回り)	77,
ざしゃといい	「坐射」といい	168,
ざしゃのばあいきざしてゆう	坐射の場合跪坐して揖	169,
ざしゃ・りつしゃ	坐射・立射	168,
ざしゃれい	坐射礼	132,133,141,154,175,
ざしゃれい・たちしゃれい	坐射礼・立射礼	147,
ざしゃれいとたちしゃれい	坐射礼と立射礼	131,149,
ざれい	坐礼	61,80,
ざれいとどうよう	坐礼と同様	83,84,
ざれいのこうさんしょう	坐礼の項参照	133,
ざれい、りつれいのようしき	坐礼、立礼の様式	80,
さいこうもくひょう	最高目標	42,
さいごのしゃしゆがいわって	最後の射手が射終わって	148,
さいごのしゃしゆがせんどうする	最後の射手が先導する	162,
さいごのしゃしゆのこうたいするとき	最後の射手の後退するとき	171,
さいごのしゃしゆのつるね	最後の射手の弦音	170,171,
さいごのしゃしゆのゆだおしとどうじ	最後の射手の弓倒しと同時	160,
さいごのしゃしゆは、いわれば	最後の射手は、射終われば	171,
さいし	祭祀	22,27,
さいじょういのしゃしゆ	最上位の射手	132,
さいしょからいっかんして	最初から一貫して	9,
さえ	「冴え」	25,
さえ	冴え	42,
さきについてのびる	先に行って伸びる	124,
さくせい	作成	15,
さしんうたい	「左進右退」	176,
さしんうたいとは	左進右退とは	176,
さだめのざ	定め座	149,193,
さだめのざからほんざへ	定め座から本座へ	162,
さだめのざでのきじゆんのれい	定め座での基準の礼(四十五度)	147,
さだめのざでのふかいいれい	定め座での深い礼	147,
さだめのざでのれい	定め座での礼	149,
さだめのざにしりぞき	定め座に退き	136,
さだめのざにたち	定め座に立ち	137,
さだめのざにちやくざ	定め座に着座	133,134,141,147,157,
さだめのざについて	定め座について	175,
さだめのざにつく	定め座に着く	136,140,143,162,
さだめのざにどうじにちやくざ	定め座に同時に着座	154,
さだめのざのさほう	定め座の作法	158,

さだめのぎのれい	定め座の礼	86,
さだめのぎよりほんぎに	定め座より本座	136,
さだめのぎをもうけることができない	定め座を設けることができない	175,
ざつねん	雑念	103,119,
ざとり	悟り	46,55,
さほう	作法	59,
さほうにあかるく	作法に明るく	150,
さほうにしたがい	作法にしたがい	180,
さゆう	左右	↓
さゆうきんとうにひきわけ	左右均等に引分け	112,114,
さゆうきんとうにはりあう	左右均等に張合う	118,
さゆうすべてのかつどうがそうたいてき	左右すべての活動が相対的	100,
さゆう、たかさをそろえ	左右、高さを揃え	144,
さゆうにはつよい	左右には強い	107,
さゆうにひとしく	左右にひとしく	112,
さゆうによわい	左右に弱い	107,
さゆうのかたをしずめ	左右の肩を沈め	107,
さゆうりょううでのはりあい	左右両腕の張合い	117,
さらにふかいれい	更に深い礼	82,
さんかっけいのちょうてんがいどう	三角形の頂点が移動	157,
さんこうしりょう	参考資料	12,
さんこうにとどめ	参考にとどめ	165,
さんじゃくのやをいっばい	(三尺)の矢を一ぱい	29,
さんじゅうじゅうもんじ	「三重十文字」	117,
さんじゅっけん	三十間	187,
さんしゅるい	三種類	185,
ざんしん	残身	121,
ざんしん	残身(残心)	55,
ざんしん	残心	121,
ざんしん	残心(残身)	64,104,121,122,
ざんしんにふくまれる	「残心(残身)」にふくまれる	122,
ざんしんのよしあし	「残心(残身)」の良し悪し	122,
ざんしんはしゃのそうけっさん	「残心(残身)」は射の総決算	122,
ざんしんもしぜんりっぱ	「残心(残身)」も自然立派	122,
さんそくでしゃいにふくす	三足で射位に復す	146,
さんぞんするこきゆう	残存する古弓	29,
さんどはごき	三度羽ごき	151,
さんどはごきをし	三度羽扱きをし	142,145,
さんにんいったい	三人一体	157,
さんにんでおこなうざしゃれい	三人で行う坐射礼	175,
さんにんのばあい	三人の場合	154,
さんにんのばあいにじゅんじて	三人の場合に準じて	158,
さんにんのまあい	三人の間合い	155,
さんばんにもっともせんぱいを	三番に最も先輩を	157,
さんばんのおとやのつるね	三番の乙矢の弦音	171,
さんぶんのいちのへんににぎり	三分の一の辺に握り	31,
さんぶんに	三分の二	113,114,
さんぽこうたい	三歩後退	151,
さんぽぜんしん	三歩前進	144,
さんぽんひご	(三本ひご)	191,
さんまいうち	(三枚打)	191,
さんみいったい	三位一体	51,56,
さんみごういつ	三位合一	54,
し		
じいのもの	次位のもの	157,
しえん	支援	13,
じかく	自覚	127,
じかくにもとづいてきかく	自覚にもとづいて企画	12,
しきしゃによってなされる	識者によってなされる	12,
しきたい	死気体	63,101,
しきふくをちやくよう	式服を着用	128,
しげき	刺激	29,
しげとうきゆう	重藤弓	21,
しけんれい	指建礼	80,82,

しけんれいのすがたでひかえる	指建礼の姿で控える	153,
じこ	自己	↓
じこおよびそごのま	自己および相互の間	168,
じこかんせい	自己完成	128,
じことうせい	自己統制	103,
じこのこころ	自己の心	102,
じこのしんちょうそれいか	自己の身長それ以下	30,
じこのひくやのながさ	自己の引く矢の長さ	114,
じこのやづか	自己の矢束	106,
しごしゃくのものがてごろ	(四~五尺)のものが手ごろ	28,
しじ	支持	13,
じ・しょ・い	時・所・位	↓
じ・しょ・いにおうじ	時・所・位に応じ	80,189,
じ・しょ・いによりしんしゃく	時・所・位により斟酌	82,
じ・しょ・いをわきまえ	時・所・位をわきまえ	128,
ししん	指針	15,
しずかなながいこきゆう	静かな長い呼吸	101,
しずかに、ちそくなく	静かに、遅速なく	114,
しずかにみじかによせてたおす	静かに身近に寄せて倒す	114,
しせい	至誠	86,129,
しせいとれいせつ	至誠と礼節	17,
じせいのすい	時世の推移	9,
じせいのようせい	時勢の要請	18-2,
しせいをひくくしてしゃをおこなう	姿勢を低くして射を行う	165,
しぜん	自然	↓
しぜんかんきょうほご	自然環境保護	18-2,
しぜんたい	自然体	63,89,100,
しぜんたいのほうそく	自然体の法則	100,
しぜんたいをほじ	自然体を保持	58,65,100,
しぜんにのび	自然に伸び	106,
しぜんにはなれる	自然に離れる	121,
しぜんのはなれ	自然の離れ	120,
しぜんのり	自然の理	59,
しそうてきにみんしゆか	思想的に民主化	35,
じだい	時代	↓
じだいがすすもとともに	時代が進むとともに	37,
じだいさくご	時代錯誤	25,
じだい、せだいをこえて	時代、世代を超えて	18-1,
じだいのしきふく	時代の式服	128,
じだいのしんてん	時代の進展	127,
じだいのちようりゆう	時代の潮流	13,46,
じだいのながれ	時代の流れ	13,131,
じだいのへんか	時代の変化	35,
じだいのへんせん	時代の変遷	17,
じだいのようきゆう	時代の要求	127,129,
したきりづめどう	下切詰籐	190,
したづる	下弦	190,
したなりぶし	下成節	191,
したまえのえりぎわ	下前の襟ぎわ	94,
しちどう	七道	104,
しつ	失	↓
しつしたとき	失したとき	172,
しつという	「失」という	172,
しつにたいするしよりがすむまで	「失」に対する処理がすむまで	158,
しつのあったとき	「失」のあったとき	158,
しつのおもなるもの	失の主なるもの	172,
しつのこころえのこうさんしょう	失の心得の項参照	184,
しつのはしりをして	「失」の処理をして	184,
しつのとこのこころえ	失のとこの心得	172,
じつぎのめん	実技の面	11,
しつけ・こうおんによわく	湿気・高温に弱く	184,
しつけやつつしみ	躄や慎み	17,
しつけによわい	湿気に弱い	185,
しつけをふせぐ	湿気を防ぐ	184,

しっこう	膝行	152,
しっこうしてゆみをとる	膝行して弓を取る	172,
しっこうする	膝行する	173,
じっこうりよく	実行力	103,
しっこう(ひかがみ)	膝膕(ひかがみ)	117,
しっさくをすること	失策をすること	172,
しつじつごうけん	質実剛健	60,
しったい	膝退	153,
じったい	実体	63,101,
しつてき	質的	130,
じつようじょうのりべん	実用上の利便	30,
じつようてきにはひつようのない	実用的には必要のない	38,
じつりのしゃ	実利の射	57,
じつりてき	実利的	22,
しどうしゃにおしえをうける	指導者に教えを受ける	185,
しどうしゃについてしゅうれん	指導者について修練	111,
しどうしゃのきょうてい	指導者の教程	9,
しどうしゃはじゅうぶんこころえ	指導者は十分心得	177,
しどうはってんへのいちじょ	斯道発展への一助	9,
しひょう	指標	34,
じぶんかってなしやをおこなわない	自分勝手な射を行わない	168,
しべのはなれ	四部の離れ	118,
じまんのすえにはつする	自満の末に発する	119,
しもせきいた	下関板	190,
しもぎのあしから	下座の足から	176,
しもぎのほうから	下座の方から	67,
しもぎのほうよりすすむこと	下座の方より進むこと	176,
しもぎよりにそんきょ	下座よりに蹲踞	153,
しもはず	下弭	190,
しゃ	射	↓
しゃい	射位	105,193,
しゃいちゅうしんより	射位中心より	186,
しゃいであしづみをする	射位で足踏みをする	138,
しゃいでいったんきざ	射位で一たん跪坐	168,
しゃいでたつたままあしづみ	射位で立ったまま足踏み	168,
しゃいでとりゆみのしせい	射位で執弓の姿勢	139,
しゃいではだのぬぎいれ	射位で肌のぬぎいれ	131,136,
しゃいではだをぬぎしゃれい	射位で肌をぬぎ射礼	136,
しゃいではだをぬぐばあい	射位で肌をぬぐ場合	136,
しゃいでまっとうけとる	射位で待つて受け取る	180,
しゃいでやつがえ	射位で矢番え	134,
しゃいでゆう	射位で揖	142,
しゃいにあつて	射位にあつて	168,
しゃいにおけるしゃしゅをちゅうしん	射位における射手を中心	157,
しゃいにきざ	射位に跪坐	137,159,169,171,177,
しゃいにさんぽ	射位に三歩	133,
しゃいにすすみ	射位に進み	137,156,
しゃいにすすみ、きざ	射位に進み、跪坐	136,154,159,
しゃいにすすむ	射位に進む	75,148,160,169,171,
しゃいにすすんできざ	射位に進んで跪坐	169,
しゃいにすすんでひとてをとる	射位に進んで一手をとる	182,
しゃいにたつしゃしゅがゆがまえ	射位に立つ射手が弓構え	158,
しゃいにたつてから	射位に立つてから	63,
しゃいにふくし	射位に復し	143,173,
しゃいにふくしたとき	射位に復したとき	173,
しゃいにふくす	射位に復す	146,173,
しゃいのきより	射位の距離	175,
しゃいのはぼまえにたつ	射位の半歩前に立つ	160,
しゃいのやくにほてまえ	射位の約二歩手前	137,
しゃい(まきわらまえゆみいちじょう)	射位(巻藁前弓一杖)	141,
しゃいよりななめみぎにぜんしんした	射位より斜め右に前進し退出	170,171,
しゃいよりこうたい	射位より後退	75,
しゃいをとる	射位をとる	142,
しゃかい	射会	132,

しゃかく	射格	55,
しゃぎ	射技	58,124,129,
しゃぎしゃじゅつ	射技射術	127,
しゃぎとれいせつ	射技と礼節	127,
しゃぎへん	射技篇	105,
しゃぎよう	射行	52,
しゃぎようのきほん	射行の基本	130,
しゃきより	射距離	120,123,186,187,
しゃきよりがとおくなる	射距離が遠くなる	123,
しゃけいがみだれつつある	射形が乱れつつある	11,
しゃけいのかんせい	射形の完成	32,
しゃしゅ	射手	149,
しゃしゅがしょうめんむきを	射手が正面に向きを	156,
しゃしゅがたちあがる	射手が立ち上がる	162,
しゃしゅがつるぎれしたばあい	射手が弦切れした場合	181,
しゃしゅそうごにかんれん	射手相互に関連	162,
しゃしゅとしゃしゅとのかんかく	射手と射手との間隔	175,
しゃしゅにじこがあつたばあい	射手に事故があつた場合	154,
しゃしゅのいきあい、きあい	射手の息合い、気合い	155,
しゃしゅのかげ	射手の陰	151,
しゃしゅのかたのたかさ	射手の肩の高さ	144,
しゃしゅのこうどうにちゅうい	射手の行動に注意	150,
しゃしゅのこうほうしもぎより	射手の後方下座寄り	153,
しゃしゅのこうほうやく1.8メートルとる	射手の後方約1.8メートル	152,
しゃしゅのこうほうよりすすむ	射手の後方より進む	180,
しゃしゅのこうほうよりわたす	射手の後方より渡す	180,
しゃしゅのこころがまえ	「射手の心構え」	168,
しゃしゅのしよさをじゅくち	射手の所作を熟知	150,
しゃしゅのしんきをみださぬ	射手の心気を乱さぬよう	153,
しゃしゅのしんり	射手の心理	115,
しゃしゅのずいい	射手の随意	145,
しゃしゅのたいりよく	射手の体力	99,
しゃしゅのたちじゅん	射手の立順	157,
しゃしゅのつるぎれのばあい	射手の弦切れの場合	180,
しゃしゅのどうさにちゅうい	射手の動作に注意	153,
しゃしゅのななめこうほう	射手の斜め後方	152,180,
しゃしゅのはだぬぎをてつだうばあい	射手の肌ぬぎを手伝う場合	150,
しゃしゅのひだりわきにさしこむ	射手の左脇に差込む	182,
しゃしゅのひんいかくちょう	射手の品位格調	122,
しゃしゅのまにちゅうい	射手の間に注意	153,
しゃしゅのまわるかたち	射手の回る形	175,
しゃしゅのみぎこうほう	射手の右後方	181,
しゃしゅのものみのふくげん	射手の物見の復元	156,
しゃしゅはかいぞえのほさをうけない	射手は介添えの補佐を受けないよう	150,
しゃしゅはしゃれいのばあい	射手は射礼の場合	180,
しゃしゅはとりゆみのしせいで	射手は執弓の姿勢で	133,136,141,
しゃしゅはめつけをかえず	射手は目付をかえず	181,
しゃしゅをけねんなくこうたい	射手を懸念なく後退	157,
しゃしゅをじく	射手を軸	153,
しゃしゅをじょうざとする	射手を上座とする	150,
しゃしゅをたんとうするもの	射手を担当するもの	149,
しゃしゅをちゅうしん	射手を中心	151,
しゃしゅをつとめうるひと	射手をつとめうる人	150,
しゃしゅをつとめるやく	射手をつとめる役	154,
しゃしゅをひきたてるよう	射手を引立てるよう	151,
しゃしゅをほさするやく	射手を補佐する役	150,
しゃしゅをまたせぬよう	射手を待たせぬよう	153,
しゃじゅつ	射術	127,
しゃじゅつのほうそく	射術の法則	99,104,
しゃじょう	射場	↓
しゃじょうですうくみが	射場で数組が	171,
しゃじょうでふたくみが	射場で二組が	172,
しゃじょうにはいるときから	射場に入るときから	63,
しゃじょうにかえる	射場に帰る	151,

しゃじょうにむきをかえる	射場に向きをかえる	151,
しゃじょうのこうきょうにおうじ	射場の広狭に応じ	153,
しゃじょうのじょうきょうによって	射場の状況によって	64,
しゃじょうもへんかはない	射場も変化はない	35,
しゃじょうをどくりつ	射場を独立	171,
しゃぜんたいのはんべつ	射全体の判別	122,
しゃそくじんせい	射即人生	17,46,119,
しゃそくせいかつ	射即生活	17,46,
しゃそくれい	射即礼	127,
じゃどう	邪道	36,
しゃとたいはい	射と体配	58,
しゃとれい	射と礼	127,
しゃとれいがこんぜんゆうわ	射と礼が渾然融和	128,
しゃにれんたつ	射に練達	150,
しゃのうんこう	射の運行	100,105,
しゃのうんこうのちゅうしん	射の運行の中心	112,
しゃのかつどう	射の活動	109,
しゃのがんもく	射の眼目	59,
しゃのきほん	射の基本	100,
しゃのきほんとなるたいど、……	射の基本となる態度、動作、射法、射技	129,
しゃのくらい	射の位	55,
しゃのこういちゆう	射の行為中	174,
しゃのこうせつ	射の巧拙	122,
しゃのたいよう	射の体用	128,
しゃのひんい、かくちょう	射の品位、格調	129,
しゃのりょうひ	射の良否	108,
しゃはかんせい	射は完成	121,
しゃはしんたいしゅうせんかならずれい	「射は進退周還必ず礼にあたる」	38,
しゃはじんのみち	射者仁道	52,
しゃはせいじんのいきょう	射は聖人の遺教	128,
しゃはへき	射は日置	127,
しゃは、れいにはじまってれいにおわる	射は、礼に始まって礼に終わる	128,
しゃひん、しゃかくのこうじょう	射品、射格の向上	16,
しゃほう	射法	58,59,104,129,
しゃほうがこんらんし	射法が混乱し	11,
しゃほうくん	射法訓	53,55,
しゃほうしゃぎがこんぜんいつたい	射法射技が渾然一体	16,
しゃほう・しゃぎのきほん	射法・射技の基本	99,117,
しゃほう、しゃぎのけんしゅう	射法、射技の研修	16,
しゃほう・しゃれい	射法・射礼	129,
しゃほう・しゃれいのとういつ	射法・射礼の統一	129,
しゃほう・しゃれいをせいてい	射法・射礼を制定	130,
しゃほうせいていいいん	射法制定委員	14,
しゃほうにしたがって	射法に従って	135,137,141,
しゃほうのけいしき	射法の形式	104,
しゃほうのひとつ	射法の一つ	165,
しゃほうはかくりゅうかくは	射法は各流各派	15,
しゃほうはっせつ	射法八節	99,101,104,
しゃほうはっせつのかいせつ	射法八節の解説	105,
しゃほうはっせつのきほんてきないよ	射法八節の基本的内容	105,
しゃりかんとく	射裡観徳	52,
しゃれい	射礼	39,44,90,127,128,129,130,131,132,149,157,165,186,
しゃれいせいていのいぎ	射礼制定の意義	129,
しゃれい・たいはい	射礼・体配	130,
しゃれいちゆうにまんいち	射礼中に万一	181,
しゃれいちゆうにゆみのはそん	射礼中に弓の破損	184,
しゃれいのしゆるい	射礼の種類	131,
しゃれいのせいしん	射礼の精神	128,
しゃれいのせいしんやいぎ	射礼の精神や意義	129,
しゃれいのとういつ	射礼の統一	129,
しゃれいのばあい	射礼の場合	174,
しゃれいのばあいはほんざで	射礼の場合は本座で	180,
しゃれいのばあいはもちろん	射礼の場合は勿論	189,
しゃれいのひとつのしゆるい	射礼の一つの種類	165,

しゃれいのもつないよう	射礼のもつ内容	131,
しゃれいのようしき	射礼の様式	132,165,
しゃれいをおこなうばあい	射礼を行う場合	130,136,175,181,
しゃれいをきほんとしたおうようどうさ	射礼を基本とした応用動作	168,
しゃれいようしき	射礼様式	147,
しゃをおこなう	射を行う	156,168,
しゃをおこなうぜんご	射を行う前後	186,
しゃをおこなうたいど	射を行う態度	59,
しゃをおこなうにあたって	射を行うにあたって	168,
しゃをおこなうばあい	射を行う場合	112,172,
しゃをおこなうばあいのきほんてきじょう	射を行う場合の基本的条件	102,
しゃしんさんしょう	写真参照	111,
しゃしんもあらた	写真も新た	16,
じゃっかんのほしゅうをひつよう	若干の補修を必要	9,
じゃばら	蛇腹	192,
しゃほうとして	射法として	36,
しゃめんうちおこし	「斜面打起し」	111,
しゃめんのかまえ	斜面の構え	109,110,
しゃをいっそうひろくせられるよう	視野を一層広くせられるよう	10,
じゅうき	重器	129,
しゅうきょうてきなかんじょう	宗教的な感情	27,
じゅうごう	柔剛	32,
じゅうさ	自由さ	28,
じゅうし	重視	132,
じゅうじつ	充実	120,
じゅうじのけいたい	十字の形態	101,
しゅうしゃのきじゆん	習射の基準	12,
しゅうじゆく	習熟	↓
しゅうじゆくしたあとでも	習熟した後でも	189,
しゅうじゆくするにしたがい	習熟するに従い	71,79,
しゅうじゆくのだあい	習熟の度合い	157,
じゅうしん	重心	65,71,
しゅうしんろん(たいようろん)	修身論(体用論)	62,
しゅうせいほひつ	修正補筆	15,
しゅうちゃくしん	執着心	103,119,
しゅうちゅうりよく	集中力	110,
じゅうどうなどは	柔道などは	36,
しゅうとく	習得	102,
じゅうぶんうちあわせをする	十分打合せをする	157,
じゅうようなぎしき	重要な儀式	132,
じゅうらいどおり	従来どおり	184,
じゅうらいのものほうしんへんこう	従来のものの方針変更	9,
しゅうれいさんぜん	周礼三千	39,
しゅうれん	修練	17,102,
しゅうれんしなければならぬ	修練しなければならぬ	103,119,129,
しゅうれんする	修練する	52,62,
しゅうれんするばあい	修練する場合	104,
しゅうれんするもののねついとどりよく	修練する者の熱意と努力	131,
しゅうれんにあたっては	修練にあたっては	17,
しゅうれんにはげむ	修練に励む	56,
しゅうれんのこと	修練のこと	71,
しゅうれんのよきししん	修練の良き指針	18-2,
しゅうれんをつむ	修練を積む	59,
じゅきょう	儒教	43,52,
じゅきょうのえいきょう	儒教の影響	38,
じゅきょうのれい	儒教の礼	29,
しゅぎょうどう	修行道	52,
しゅさいしゃ	主催者	132,
じゅしゅさえもはんべつしがたい	樹種さえも判別し難い	23,
しゅたるもの	主たるもの	69,
じゅつぎ	術技	↓
じゅつぎのないようをしょうじゅつ	術技の内容を詳述	55,
じゅつぎをしめし	術技を示し	9,
じゅつぎをしょうりやく	術技を省略	55,

じゅつぎをはなれたれいはしやにあらず	術技を離れた礼は射にあらず	127,
じゅれいしや	受礼者	63,
じゅれいしやのみぶん	受礼者の身分	82,83,84,
じゅんし	荀子	39,
じゅんじおとやをい	順次乙矢を射	164,
じゅんじはやをい	順次甲矢を射	158,159,164,
じゅんじほんざにすすんで	順次本座に進んで	154,
じゅんじよにしたがい	順序に従い	168,
じゅんしんせいちよう	純真清澄	128,
じゅんだちのばあい	順立の場合	169,
じゅんびどうさ	準備動作	109,
じよ	序	9,
じょうい	(上位)	193,
じょういにたいしてれい	上位に対して礼	133,136,137,140,141,143,154,157,
しようごかわいたぬので	使用後乾いた布で	185,
じょうざ	上座	193,
じょうざにせをむけない	上座に背を向けない	76,
じょうざにむかってのこころえ	上座に向かつての心得	176,
じょうざのあしから	上座の足から	176,
じょうざのほうよりひくこと	上座の方より退くこと	177,
じょうざよりよせるばあい	上座より寄せる場合	123,
じょうざをしゅたいとしてこうどう	上座を主体として行動	176,
しようじょうのけいけん	使用上の経験	28,
じょうすん	定寸	187,
じょうそうやしんり	情操や心理	35,
しょうそういん	正倉院	23,
じょうたい	上体	↓
じょうたいがくずれないよう	上体がくずれないよう	72,
じょうたいがこうほうにそる	上体が後方に反る	109,
じょうたいがまえにかがむ	上体が前にかがむ	109,
じょうたいがみぎにかたむく	上体が右に傾く	123,
じょうたいのはこび	上体の運び	81,
じょうたいのみ	上体のみ	84,
じょうたいをおこす	上体を起こす	81,87,
じょうたいをくっしながら	上体を屈しながら	80,82,
じょうたいをくっする	上体を屈する	80,81,83,84,
じょうたいをくっするかくど	上体を屈する角度	82,83,84,
じょうたいをただしくあんせいにおく	上体を正しく安静におく	107,
じょうたいをただしくたもつ	上体を正しく保つ	66,68,69,70,
じょうたいをはこぶ	上体を運ぶ	74,
じょうたいをやくじゅっせんちくっし	上体を約10センチ屈し	87,
しょうちょう	象徴	31,
しょうちょうされている	象徴されている	22,
しょうちょうのあんてい	情緒の安定	103,
しょうないのかかりがとる	場内の係がとる	174,
しょうにもゆうり	使用にも有利	31,
しょうのぜんご	使用の前後	184,
じょうはくぶ	上膊部	115,
じょうはんしんをのばす	上半身を伸ばす	117,
しょうぶ	勝負	36,
しょうぶのためのしょうぶ	勝負のための勝負	36,
しょうほうはむずかしい	使用法はむずかしい	185,
しょうめん	正面	↓
しょうめんうちおこし	「正面打起し」	111,
しょうめんうちにうちおこし	正面に打起し	113,
しょうめんむきをかえるとともにたつ	正面に向きを変えるとともに立つ	156,
しょうめんやをたてかけ	正面に矢をたてかけ	144,
しょうめんのかまえ	正面の構え	109,110,
しょうよう	従容	89,
しょうようてんが	従容典雅	60,
しょうらいもかわることはない	将来も変わることはない	9,
しょうわのしょき	昭和の初期	129,
しょうわ28ねん	昭和二十八年	14,15,
しょうわ46ねん	昭和四十六年	18,

しょがくをあいいく	初学を愛育	9,
しょくもつをえる	食物を得る	26,
しょけん	諸賢	13,
じよし	女子	↓
じよしはりょうあしをせつする	女子は両足を接する	66,
じよしはよんほはん	女子は四歩半	74,
しょしんのうちは	初心のうち	185,
じよせいてき	女性的	32,
しょほのあいだ	初歩の間	189,
しよりほうほう	処理方法	172,
じよろん	序論	19,
しらかわほうおう	白河法皇	23,
しり	尻	↓
しりをかかどにつける	尻を踵につける	78,
しりをりょうかかとのうえに	尻を両踵の上に	72,
しりぞいてしゃいにふくし	退いて射位に復し	173,
しりょうもひんこん	資料も貧困	23,
しりよく	視力	120,
しろいろがのぞましい	白色が望ましい	190,
しん	真	42,
しん・ぎょう・そう	真・行・草	62,
しんじつせい	真実性	42,
しんじつのたんきゅう	真実の探求	42,
しんずい	真髓	45,
しんぜんび	真善美	58,
しんぜんびがけんげん	真善美が顕現	128,
しんのきゅうどう	真の弓道	127,
しん	心	↓
しんがん	心眼	63,
しんき	心気	63,65,68,89,108,153,
しんきのあんてい	心気の安定	51,54,
しんきのじゅうじつ	心気の充実	119,
しん・きのはたらき	心・気の働き	99,102,
しんきもととのい	心気も整い	63,
しんしのあんてい	心志の安正	52,
しんしん	心身	102,
しん・しん・きゅう	心・身・弓	58,
しんてき	心的	46,
しんてきかち	心的価値	38,
しんてきかんかく	心的感覚	26,
しんてきしんか	心的進化	37,
しんてきたいど	心的態度	44,
しんてきようそのうつくしさ	心的要素の美しさ	38,
しんぽう	心法	47,
しんり	心理	35,
しんりてき	心理的	119,
じん	仁	39,
じん・ぎ・れい・ち	仁・義・礼・智	39,
じんぎれいちしん	仁義礼智信	52,
しんあい	親愛	79,
しんえん	深遠	131,
しんか	進化	37,
じんかく	人格	57,
じんかくか	人格化	23,
じんかくてき	人格的	23,
しんかした	進化した	32,
しんぎ	審議	15,
しんぎ	信義	57,
しんきょうほんにより	新教本により	9,
しんこう	進行	171,
しんこうのたいしょう	信仰の対象	26,
しんこまんぶん	審固満分	52,
しんさ	審査	132,
しんさいいんちょう	審査委員長	174,

しんさのばあい	審査の場合	174,
しんじ	神事	132,
しんしゃく	斟酌	82,
しん・しん・きゆう	身・心・弓	51,54,
しんしんとも	心身とも	17,
しんしんのしゅうよう	心身の修養	127,
しんせいなさいし	神聖な祭祀	27,
しんせいなもの	神聖なもの	27,31,
しんせいをよりたかくゆたかに	人生をより高く豊かに	17,
しんせつきじだいのいしやじり	新石器時代の石鏃	23,
しんぜんまたはこうきなかたのまえで	神前または高貴な方の前で	165,
しんそうのきょうほん	新装の教本	9,
しんそく	迅速	168,
しんたい	進退	162,175,
じんたい	人体	100,
しんたいしゅうせん	進退周還	43,44,52,128,
しんたいのあんてい	身体の安定	51,52,
しんたいのかつどう	身体の活動	101,
しんたいのじゅうなんさ	身体の柔軟さ	79,
しんたいのじゅんじょ	進退の順序	154,
しんちょう	伸張	120,
しんてきかんかく	心的感覚	26,
しんてきたいど	心的態度	27,
しんてきなしんか	心的な進化	37,
しんてきなめん	心的な面	11,
じんどう	仁道	40,
しんねん	信念	119,
しんばんせき	審判席	193,
しんびてき	神秘的	26,
しんぼてき	進歩的	26,
じんむてんのう	神武天皇	22,
しんり	心理	35,
しんりてきなせかい	心理的な世界	22,
じんりよく	尽力	14,
しんりよくのもと	新緑の下	9,
じんるいのこだいぶんか	人類の古代文化	22,
じんるいのしぜんのしゅうせい	人類の自然の習性	24,
じんるいのしよくよく	人類の食欲	24,
す		
すいへい	水平	113,
すいへいめんにたいしておなじかくど	水平面に対して同じ角度	89,
すいへいにたもち	水平を保ち	180,
すいへいをたもち	水平を保ち	114,
すういき	吸う息	↓
すういきであしをふみだし	吸う息で足を踏み出し	70,
すういきでからだをおこす	吸う息で体を起こす	81,84,
すういきでからだをくっし	吸う息で体を屈し	81,83,
すういきでこしをしずめ	吸う息で腰を沈め	72,
すういきでこしをのばし	吸う息で腰を伸ばし	77,
すういきにてあしをはんそくひき	吸う息にて足を半足ひき	72,
すういきひといきでまわる	吸う息一息で回る	78,
すうはいかんねん	崇拜観念	31,
すき	隙	62,108,151,
すぐれたもの	すぐれたもの	35,
すじみち	すじ道	82,
すすむときはしもぎのほうのあしから	進むときは下座の方の足から	176,
すすむときはひだりあしから	進むときは左足から	176,
すなお	素直	62,
すべてのどうさ	すべての動作	115,
すぽ一つせいとこくさいせい	スポーツ性と国際性	35,
すぽ一つせいかく	スポーツ性格	45,
すぽ一つよう	スポーツ用	30,
すらすらとはこぶ	スラスラと運ぶ	158,
すわったしせい	すわった姿勢	61,87,

すわったしせい	坐った姿勢	67,70,80,
すわったしせいでれい	坐った姿勢で礼	82,
すわってのつまだったしせい	坐っての爪立ったしせい	69,
すわりかた	すわり方	61,72,
すわる	坐る	64,
すわるときはじょうぎのあしから	すわるときは上座の足から	176,

せ

せいかつ	生活	45,
せいかつようぐ	生活用具	30,
せいかつようしき	生活様式	60,
せいき	生氣	58,63,
せいき	正氣	60,
せいき	正技	60,
せいきたい	生氣体	63,101,
せいけつ	清潔	189,
せいこう	精巧	25,
せいこうなこと	精巧なこと	21,
せいざ	正坐	61,67,69,72,89,133,
せいざのこうさんしょう	正坐の項参照	72,
せいさくがせいこう	製作が精巧	25,
せいしん	精神	↓
せいしんしんたい	精神身体	111,
せいしん・しんたい・ゆみや	精神・身体・弓矢	115,
せいしんでいえばざんしん	精神でいえば「残心」	121,
せいしんてき	精神的	34,129,
せいしんてききょだつきかん	精神的虚脱期間	11,
せいしんてきたいど	精神的態度	26,
せいしんてきなめん	精神的な面	38,
せいしんてきなめんがひつよう	精神的な面が必要	35,
せいしんてきにとりあつかって来た	精神的に取り扱って来た	28,
せいしんてきにもしげき	精神的にも刺激	29,
せいしんてきゆえつにひたる	精神的愉悦にひたる	34,
せいしんをやしない	精神を養い	57,
せいじん	聖人	128,
せいてい	制定	15,
せいのうはつき	性能発揮	185,
せいめい	生命	69,
せいらてきなこきゅう	生理的な呼吸	101,
せかいじゅう	世界中	27,
せかいしよみんぞくのゆみのけいとう	世界諸民族の弓の系統	28,
せかいてきにむひ	世界的に無比	25,
せかいにひるいのない	世界に比類のない	21,
せかいにるいれいのない	世界に類例のない	38,
せかいにれいのない	世界に例のない	38,
せかいのいたるところ	世界のいたるところ	21,
せかいのしよみんぞく	世界の諸民族	30,
せかいのどこにもなかつた	世界のどこにもなかつた	28,
せかいのゆみのこせん	世界の弓の弧線	31,
せかいむひのもの	世界無比のもの	26,
せきちゅう	脊柱	90,100,108,117,
せきにんしゃ	責任者	132,
せきむはおもく	責務は重く	149,
せすじ	背すじ	80,82,83,
せそうのすい	世相の推移	127,
せつしゅれい	折手礼	80,82,
せつちやくざい	接着材	184,
せつぼう	切望	13,
せのきんこつ	背の筋骨	114,
せろんのはんたい	世論の反対	129,
せをまるめ	背を丸め	81,84,87,
ぜん	善	43,
ぜんいんがいおわるのをまつ	全員が射終わるのを待つ	158,
ぜんいんそろってあしぶみ	全員そろって足踏み	163,
ぜんいんそろってはだぬぎ	全員そろって肌ぬぎ	163,

ぜんいんどうじにきざ	全員同時に跪坐	148,160,
ぜんいんどうじにやをつがえ	全員同時に矢を番え	164,171,
せんき	戦器	32,
ぜんくねんのえき	前九年の役	23,
ぜんご	前後	↓
ぜんごにはつよい	前後には強い	107,
ぜんごによわい	前後に弱い	107,
ぜんごのかんけいをたもち	前後の関係を保ち	168,
ぜんごのききよしんたい	前後の起居進退	168,
せんごのきゆうどう	戦後の弓道	35,
ぜんごのどうさ	前後の動作	146,
ぜんごのどうさはおこなわない	前後の動作は行わない	137,141,144,146,
ぜんこくにふきゆう	全国に普及	15,
ぜんこくのかいいんかくいのりかい	全国の会員各位の理解	15,
ぜんこくのかいいんしよし	全国の会員諸氏	14,
せんごのきゆうどうかいは	戦後の弓道界は	11,
せんごのきゆうどうかいは	戦後の弓道は	34,
ぜんしゃのとりにかてでこうしゃはたつ	前者の取懸けで後者は立つ	171,
せんじょうにおいて	戦場において	165,
ぜんしん・こうたいはいきあいにあわせ	前進・後退は息合いに合わせ	155,
ぜんしんしたいしゆつ	前進し退出	170,
ぜんしんするもの	前進するもの	37,
ぜんしんのきんせい	全身の均整	108,
せんじんのなかではたつ	戦陣の中で発達	38,
ぜんしんのほはばよりせまくなる	前進の歩幅より狭くなる	175,
せんじんのゆみ	戦陣の弓	34,
せんぜんのきゆうどうかい	戦前の弓道界	11,
せんそうではない	戦争ではない	36,
せんそうのため	戦争のため	38,
ぜんたいのまあいになちゆうい	全体の間合いに注意	168,
ぜんてき	禅的	42,
せんてつのいせき	先哲の遺績	130,
せんどうやくであるいちばん	先導役である一番	157,
ぜんにほんきゆうどうれんめい	全日本弓道連盟	9,12,15,18,18-1,18-2,130,
ぜんにほんきゆうどうれんめいかいちょう	全日本弓道連盟会長	10,11,
ぜんにほんきゆうどうれんめいせいてい	全日本弓道連盟制定	188,
せんぱい	先輩	82,
ぜんぱく	前膊	91,
せんもんてきなけんきゆう	専門的な研究	37,
せんもんてきのけんきゆう	専門的の研究	12,

そ

そうがく	宋学	40,
そうかんとうじとこんにちと	創刊当時と今日と	9,
そうごにてきとうなかんかく	相互に適当な間隔	154,
そうごのあいだによどみみなく	相互の間に淀みもなく	156,157,
そうごのま	相互の間	168,
そうごんせい	莊嚴性	44,
そうごんび	莊嚴美	43,
そうしゆれい	双手礼	80,82,
そうしよくしたゆみ	装飾した弓	21,
そうたいしてえんそう	相対して円相	179,
そうたいのじゅうしんをこしのちゆうおうに	総体の重心を腰の中央におき	108,
そうちょうゆうが	莊重優雅	128,
ぞうひょうのもつもの	雑兵の持つもの	27,
ぞうほ	増補	18-2,
そえゆび	添え指	192,
ぞくぞくかんこう	続々刊行	13,
そくどもはやく	速度も速く	124,
そくめん	側面	78,
そくめんよりみたゆみのたかさ	側面より見た弓の高さ	179,
そしきのみんしゃか	組織の民主化	35,
そそつきよごう	粗卒倨傲	59,
そつちよくにけんとう	率直に検討	17,
そで	袖	↓

そでぐちにいれ	袖口にいれ	91,92,133,
そでぐちにたのよんしをそろえ	袖口に他の四指をそろえ	91,
そでぐちのじょうたんをはかまのひもに	袖口の上端を袴の紐に	92,93,
そでぐちをちちのした	袖口を乳の下	91,
そでぐちをひもからとる	袖口を紐から取る	94,
そでぐちをもち	袖口を持ち	91,
そでぐちよりだす	袖口より出す	94,95,
そですりぶし	袖摺節	192,
そですりぶしのしたを	袖摺節の下を	180,
そでにいれる	袖にいれる	94,
そでをめぐどうさ	袖をめぐ動作	90,
そでやまのないめんをすり	袖山の内面をすり	91,
そとうば	蘇東坡	62,
そとはちもんじ	外八文字	105,
そのたのくにのゆみ	その他の国の弓	21,
そのたのころえ	その他の心得	174,
そのばにきざ	その場に跪坐	142,
そばき	側木	191,
そばくせい	素朴性	25,
そばくなもの	素朴なもの	25,
そらず	反らず	89,
そり	一反り一	32,
そるどう	反る胴	108,
そんきよ	蹲踞	61,69,
そんきよし	蹲踞し	153,
そんきよしてとる	蹲踞して取る	173,
そんげんさ	尊厳さ	28,
そんすうかん	尊崇感	26,
そんすうせい	尊崇性	30,

た

たい	体	→からだ
たいいく	体育	46,
たいいくてき	体育的	34,
たいいくやけんこう	体育や健康	17,
だいいちかいぞえ	第一介添え	149,153,
たいおうてき	対応的	100,
たいかく	体格	74,
たいがまえをくずさずまつ	体構えをくずさず待つ	163,
だいかわ	台皮	192,
たいきゅう	大弓	29,
たいきゅうりよく	耐久力	185,
たいく	体躯	32,
たいくがみじかい	体躯が短い	30,
たいけいげんぜん	体型厳然	122,
たいこう	大綱	12,13,
たいこうきょうぎ	対抗競技	172,
だいがえもんつねたけ	台右衛門経武	53,
だいさん	大三	113,114,
たいしゅう	大衆	37,
たいしゅうてき	大衆的	45,
たいしゅうのきゅうどう	大衆の弓道	34,
たいしゅうつ	退出	136,140,143,157,170,
たいしゅうつのさい	退出の際	174,
たいせい、きこうにみとおし	体制、機構に見通し	12,
たいせつなみち	大切な道	119,
たいせつにとりあつかう	大切に取扱う	185,
たいせんいぜん	対戦以前	35,
たいせんまえのきゅうどう	大戦前の弓道	34,
だいたいぶ	大腿部	69,
たいど	態度	129,
たいとく	体得	149,
だいとくじ	大徳寺	53,
だいにかいぞえ	第二介添え	149,153,
だいにかん、だいさんかんをかんこう	第二巻、第三巻を刊行	15,

だいにほんぶとくかい	大日本武徳会	129,
たいはい	体配	↓
たいはいがひつよう	体配が必要	58,
たいはいとしゃほうしゃぎ	体配と射法射技	16,
たいはいによる	体配による	130,
たいはいはぜんこくてきにとういつ	体配は全国的に統一	15,
たいはいをいかし	(体配)を生かし	101,
たいはいをじゅうし	(体配)を重視し	15,
たいへいようえんがんのしょみんぞく	太平洋沿岸の諸民族	32,
たいへいようけい	太平洋系	22,29,
たいへいようほうめんのみんぞく	太平洋方面の民族	28,
たいようがしずかにのぼうきょうち	太陽が静かに昇る境地	112,
たいようろん	(体用論)	62,
たいりくけい	大陸系	22,
たいりくけいのゆみ	大陸系の弓	23,
たいりよく	体力	↓
たいりよく・きりよくのすいたい	体力・気力の衰退	59,
たいりよくそうおうのちからのゆみ	体力相応の力の弓	99,
たいりよくそうおうのもの	体力相応のもの	124,
たかいしひょう	高い指標	34,
たくしゅれい	拓手礼	82,
たけ	竹	191,
たけまたはき	竹または木	191,
たしょうそうい	多少相違	149,
たしょうのふべん	多少の不便	31,
たすきがけ	襷がけ	147,
ただしい	正しい	↓
ただしいいきあい	正しい息合い	58,
ただしいかたち	正しい形	185,
ただしいごうじゃくをたもつ	正しい剛弱を保つ	185,
ただしいしせい	正しい姿勢	105,
ただしいしんたいのかつどう	正しい身体の活動	102,
ただしいしんねんとゆうき	正しい信念と勇氣	17,
ただしいしんねんにもとづき	正しい信念にもとづき	103,
ただしいせいしんのじゅうじつ	正しい精神の充実	102,
ただしいゆみのしゃほう	正しい弓の射法	11,
ただしいゆみのにんしき	正しい弓の認識	11,
ただしくしんたい	正しく進退	175,
ただちにゆうするひつようはない	直ちに揖する必要はない	171,
ただやづか	ただ矢束	119,
たちかた	立ち方	61,70,
たちしゃれい	立射礼	132,137,145,
たちしゃれいがよい	立射礼がよい	165,
たちしゃれいとす	立射礼とする	131,
たちしゃれいとものに	立射礼とともに	147,
たちしゃれいのばあい	立射礼の場合	173,
たちじゅんはじゅんだちをげんそく	立順は順立を原則	169,
たちじゅんをへんこう	立順を変更	184,
たつ	立つ	64,71,
たつたいちからひだりななめに	立った位置から左斜めに	157,
たつたしせい	立った姿勢	61,65,72,73,83,87,88,
たつてあしがそろうのとどうじ	立って足がそろうのと同時	156,
たつてさだめのぎに	立って定め座に	136,
たつてしゃいに	立って射位に	133,136,158,
たつてひだりあしよりまとにすすむ	立って左足よりのに進む	150,
たつときはしもぎのあしから	立つときは下座の足から	176,
たて	縦	↓
たてぐし	縦串	188,
たてせんのこうせい	縦線の構成	115,
たてせんののび	縦線の伸び	107,
たてせんをこうせいするきほんじょうけ	縦線を構成する基本条件	117,
たてせんをじく	縦線を軸	115,
たてにもよこにもかまえられる	縦にも横にも構えられる	28,
たてのせん	縦の線	100,

たてよこじゅうもんじ	縦横十文字	99,100,114,121,
たてよこじゅうもんじのきく	縦横十文字の規矩	100,114,115,116,117,122,
たてよこじゅうもんじのはなれ	縦横十文字の離れ	55,
たてよこじゅうもんじをじく	縦横十文字を軸	118,
たなごごろ	掌	66,
たにんずう	多人数	↓
たにんずうがいったい	多人数が一体	162,
たにんずうがたんじかんにおこなうばあ	多人数が短時間に行う場合	170,
たにんずうでおこなう	多人数で行う	131,175,
たにんずうでおこなうしゃれいのかた	多人数で行う射礼の形	133,
たにんずうでおこなうばあい	多人数で行う場合	162,
たにんずうでおこなうばあいのきほん	多人数で行う場合の基本	131,
たにんずうでぎょうしゃ	多人数で行射	64,
たにんずうでしゃれい	多人数で射礼	130,175,
たのしむきゅうどう	楽しむ弓道	45,
たのやししゅがいおわるまでまつ	他の射手が射終わるまで待つ	184,
たのやししゅのきあいをみださない	他の射手の気合いを乱さない	181,
たのやししゅはしゃれいに	他の射手は射位に	148,
たのしよみんぞくのだいぶぶん	他の諸民族の大部分	26,
たのひとをはいりよし	他の人を配慮し	173,
たび	足袋	189,
たまごをにぎる	卵を握る	111,
ためがもどることもある	「ため」がもどることもある	185,
ためておく	「ため」ておく	185,
ためるという	(ためるという)	185,
たもと	袂	93,94,
たんきゅう	短弓	21,27,28,
たんきゅうよりうつくしい	短弓より美しい	31,
だんし	男子	190,
だんしがはかまをはいたとき	男子が袴をはいたとき	89,
だんしのきゅうどういのばあい	男子の弓道衣の場合	147,
だんしはさんせんちのかんかく	男子は三センチの間隔	66,
だんしはにめーとるをさんぼはん	男子は二メートルを三步半	74,
たんじかんにたすうのやししゅが	短時間に多数の射手が	168,
たんじゅんである	単純である	23,
たんじゅんなもの	単純なもの	23,
だんじょのくべつなく	男女の区別なく	107,
たんしんでおこなう	単身で行う	131,132,162,
たんしんでしゃれい	単身で射礼	130,184,
たんしんのばあいとことなり	単身の場合と異なり	162,
たんしん、ふたりいじょう	単身、二人以上	165,
だんせいてき	男性的	32,
たんせいのもくきゅう	単製の木弓	23,
たんでん	丹田	↓
たんでんにおさめ(心)	(心を)丹田に納め	54,
たんでんにおさめ(心気)	(心気を)丹田におさめ	65,68,
たんでんにおさめるどうさ(心気)	(心気を)丹田におさめる動作	108,
だんどうひくく	弾道低く	124,
だんりよくのつよさ	弾力の強さ	32,
ち		
ちかくてきなかんきょう	知覚的な感興	25,
ちかくにおちたばあい	近くに落ちた場合	172,
ちからにたいさはない	力に大差はない	22,
ちからのつよいこと	力の強いこと	21,
ちからのつよいゆみ	力の強い弓	22,
ちからはてんちさゆう	力は天地左右	118,
ちくかんどうようのもの	竹幹同様のもの	25,
ちくかんのや	竹幹の矢	25,
ちしきをあつめ	知識を集め	9,
ちじょう27せんち(やく9すん)	地上二七センチ(約九寸)	187,
ち・じん・ゆう	知・仁・勇	39,
ちそくなく	遅速なく	114,
ちちのあたり	乳のあたり	137,138,
ちちのした	乳の下	91,

ちてきこうさく	知的工	24,
ちてきしょさん	知的所産	26,
ちばたねつぐ	千葉胤次	11,
ちやくようする	着用する	190,
ちゅうごく	中国	22,
ちゅうごくがもつともふるい	中国がもつとも古い	21,
ちゅうごくけいとうのゆみ	中国系統の弓	22,
ちゅうごくたいりくのゆみ	中国大陸の弓	28,
ちゅうごくとはまったくことな	中国とはまったく異な	28,
ちゅうごくぶんかのえいきょう	中国文化の影響	28,
ちゅうごくのしそ	中国の思想	29,
ちゅうごくのゆみ	中国の弓	21,
ちゅうごくのわんきゆう	中国の彎弓	29,
ちゅうしんからした	中心から下	31,
ちゅうしんににぎり	中心に握り	31,
ちゅうせいなどうどくり	中正な胴造り	109,
ちゅうせいのどうどくり	中正の胴造り	123,
ちゅうどう	中胴	109,
ちょうい	弔意	132,
ちょうきゆう	長弓	22,29,31,
ちょうきゆうそんぞくのりゆう	長弓存続の理由	30,
ちょうきゆうをしようしつづけ	長久を使用しつづけ	31,
ちょうきゆうをもちつづけてきた	長弓を持ち続けて来た	28,
ちょうこつ	腸骨	89,
ちょうこつぜんじょうきよく	腸骨前上棘	89,
ちょうじゆうをかくとく	鳥獸を獲得	24,
ちょうしょ	長所	31,
ちょうだいなけいたい	長大な形態	26,
ちょうだいなうつくしいゆみ	長大な美しい弓	38,
ちょうだいなゆみ	長大な弓	21,
ちょうだいになった	長大になった	26,
ちょうだいのそんげんさ	長大の尊厳さ	28,
ちょうわ	調和	32,
ちょうわのび	調和の美	17,129,
ちょうわのびとちから	調和の美と力	158,162,
ちよくきゆう	直弓	29,
ちよくせつかわかさない	直接乾かさない	186,
ちよくどうりよく	直動力	99,
ちよしょ	著書	9,
ちよっかく	直角	101,
ちよっけい1・58めーとる	直径一・五八メートル	187,
ちよっけい36センチ	直径三六センチ	186,
ちよっけい79センチ	直径七九センチ	187,
ちれんかいちょう	地連会長	14,
ちれんやくいんいちどう	地連役員一同	14,
ちんせいてきなどうさ	沈靜的な動作	108,
つ		
つうじょうさんぽ	通常三歩	175,
つうれい	通例	132,
つかいなれてしまえば	使い馴れてしまえば	31,
つき	槻	29,
つぎのどうさからそろっておこなう	次の動作からそろって行う	164,
つくばい	つくばい	165,
つくばいとしようするしゃれい	「つくばい」と称する射礼	165,
つくりかた	つくり方	23,
つくろったゆだおし	つくろった弓倒し	122,
つちふまず	土ふまず	66,74,
つつしみ	慎み	40,
つつしむ	慎む	151,172,
つつみかわ	包皮	192,
つねにかんそうしたばしょ	常に乾燥した場所	185,
つねにしんか	常に進化	37,
つねにただしいかたちをかながえ	常に正しい形を考え	185,
つのみ	角見	118,

つばややじり	鑢や鑢	38,
つまさき	爪先	↓
つまさきがたっている	爪先が立っている	71,
つまさきがゆかからはなれない	爪先が床から離れない	79,
つまさきであるかない	爪先で歩かない	74,
つまさきTじけいにかけ	爪先T字形にかけ	75,
つまさきのひらかないよう	爪先の開かないよう	66,
つまさきはからだのうちがわにいれる	爪先は体の内側に入れる	69,73,
つまさきをじく	爪先を軸	70,
つまさきをたて	爪先を立て	70,
つまさきをふせ	爪先を伏せ	72,
つまだったしせい	爪立った姿勢	72,
つまだっこしをおろしたしせい	爪立って腰をおろした姿勢	61,69,
つめあい	詰合い	115,117,118,
つめあい・のびあい	詰合い・伸合い	117,
つゆきやかきにはくるいやすい	梅雨期や夏季には狂いやすい	184,
つよいよぼう	強い要望	14,
つよくかためる	強く固める	186,
つりあい	つり合い	124,
つる	弦	186,
つるがきれたばあい	弦が切れた場合	173,181,
つるぎれしたばあい	弦切れした場合	181,
つるぎれのあったばあいのしよりほうほ	弦切れのあった場合の処理方法	184,
つるぎれのばあい	弦切れの場合	180,
つるぎれのばあいのたいど	弦切れの場合の態度	184,
つるぎれのゆみ	弦切れの弓	180,
つるしらべ	弦調べ	63,102,
つるしらべのしらべをおこない	弦調べ篋調べを行い	135,
つるしらべはきそくをととのえる	弦調べは氣息を整える	135,
つるしらべはつるねをきいたのちおこ	弦調べは弦音を聞いたのち行う	164,
つるしらべをおえ	弦調べを終え	158,
つるしらべをおこない	弦調べを行い	137,
つるでわらじのように	弦でわらじのように	186,
つるにまかせ	弦にまかせ	115,
つるね	「弦音」	25,
つるね	弦音	42,170,
つるねでにゆうじょうし	弦音で入場し	171,
つるねでゆう	弦音で揖	171,
つるねでゆみをたて	弦音で弓を立て	170,
つるねをきいてたち	弦音を聞いて立ち	159,
つるねをきいてとりかけをする	弦音を聞いて「取懸け」をする	170,
つるのきれたゆみ	弦の切れた弓	180,
つるのじょうげに、さんじゅっせんち	弦の上下二、三〇センチ	135,
つるのとおるみち	弦の通る道	114,
つるのめかた	弦の目方	186,
つるはかるくきょうぶにつけ	弦は軽く胸部につけ	114,
つるははなすじ	弦は鼻すじ	95,
つるまき	弦巻	189,
つるまきそのたのけいたいひんについ	弦巻その他の携帯品について	189,
つるまきをこしにさげる	弦巻を腰にさげる	189,
つるまくら	弦枕	192,
つるみちという	(弦道という)	114,
つるわ	弦輪	190,
つるをかえし	弦を返し	94,136,148,
つるをかえす	弦をかえす	134,
つるをさらにつよく	弦をさらに強く	186,
つるをしたへかえす	弦を下へ返す	137,138,139,140,
つるをそと	弦を外	88,
つるをとる	弦をとる	173,
つるをひろって	弦を拾って	173,
つるをまとのほうに	弦を的の方に	181,
つるをよくこする	弦をよくこする	186,
て	手	↓

てをもものつけねに	手を腿のつけ根に	93,94,
てくびがまがらぬよう	手首が曲がらぬよう	110,
てくびやひじはやわらか	手首や肘は柔か	111,
てききではなす	手先で離す	118,
てききのぎこう	手先の技巧	121,
てききのちから	手先の力	118,121、
てききのわざ	手先の技	119,
てききはえりのうち	手先は襟の内	92,
てにちからをいれない	手に力をいれない	68,
てのいち	手の位置	82,
てのうち	手の内	109,110,124,
てのうちのはたらきにちゆうい	手の内の働きに注意	124,
てのうちをさだめ	手の内を定め	110,
てのうちをととのえ	手の内を整え	110,
てのひらき	手の開き	80,
ていきよう	提供	12,
ていこうりよく	抵抗力	99,
ていじそうかい	定時総会	14,
ていしたい	停止体	76,
ていしたいのまわりかた	停止体の回り方	61,75,
ていれ	手入れ	184,185,186,
てきちゆう	的中	42,
てきちゆうがもくひよう	的中が目標	38,
てきちゆうしじょうしゆぎ	的中至上主義	16,
てきちゆうにのみこころをうばわれ	的中にのみ心をうばわれ	57,
てきちゆうのめいしゆ	的中の名手	59,
てきとうなもの	適当なもの	190,
てきとうのいちまでほこう	適当の位置まで歩行	173,
てきとうのかんかくをたもつ	適当の間隔を保つ	175,
てきとうのきよりをたもち	適当の距離を保ち	182,
てした	手下	190,
てしたぶし	手下節	191,
てつがくてき	哲学的	42,
てっせきあいこく	鉄石相剋	55,
てっていにつとめる	徹底に努める	15,
てぬぐい	手拭	189,
てのひら	掌	↓
てのひらがはいるていど	掌がはいる程度	69,
てのひらのひらきこれにともなう	掌の開きこれに伴う	82,
てのひらはこころもちくぼみ	掌は心もちくぼみ	66,67,
てのひらをたてしてはいるくらのきより	掌を縦にしてはいるの距離	144,
てのひらをつけくつたい	掌をつけ屈体	82,
てん	天	39,
てんかこっかをおさめるじゆうき	天下国家を治める重器	128,
てんかをおどし	天下を威し	128,
てんちさゆうにしんちよう	天地左右に伸張	115,122,
てんちさゆうにのびあう	天地左右に伸び合う	117,
てんちにのび	天地に伸び	108,
てんちのじゆうごう	天地の柔剛	32,
てんどう	天道	32,
てんぴよう	「天表」	26,31,
てんが	典雅	80,
てんかん	転換	31,
でんこうせつか	電光石火	127,
でんしょうしたけいけん	伝承した経験	37,
でんしょうのふるいもの	伝承の古いもの	37,
でんとう	伝統	128,130,
でんとうがじぞく	伝統が持続	129,
でんとうてきかんねん	伝統的観念	129,
でんとうにひしている	天道に比している	32,
てんのみち	天の道	32,
と		
どう	道	37,38,58,
どうがくてき	道学的	40,

どうぎ	(道義)	35,
どうぎせい	道義性	39,
どうぎてき	(道義的)	38,
どうとく	道德	↓
どうとくてきなかんがえかた	道德的な考え方	40,
どうとくてきにはていかしたじだい	道德的には低下した時代	43,
どうとくのしゅうようどう	道德の修養道	52,
どうとくをおさむる	道德を修る	128,
どうとれい	(道と礼)	37,
どうぐもまったくおなじ	道具もまったく同じ	35,
とうけん	刀剣	38,
どうさ	動作	62,63,129,130,
どうさがけいし	動作が軽視	57,
どうさがみだれる	動作が乱れる	64,
どうさすること	動作すること	172,
どうさちゅう	動作中	90,
どうさといきあい	動作と息合い	64,101,
どうさにうつる	動作に移る	64,69,
どうさにこきゅうをきょうおう	動作に呼吸を協応	135,
どうさにはざんしんがたいせつ	動作には残身が大切	64,
どうさにはまがたいせつ	動作には間が大切	64,
どうさのおわり	動作の終わり	64,
どうさのきまるところ	動作のきまるところ	64,
どうさのちゅういてん	動作の注意点	62,
どうさはいきあいのきょうおう	動作は息合いとの協応	101,145,
どうさはきほんにのつとる	動作は基本に則る	64,
どうさはこしがきかん	動作は腰が基幹	64,
どうさはただしいこきゅうにあわせる	動作は正しい呼吸に合わせる	63,
どうさはふっきんとこしのたんれん	動作は腹筋と腰の鍛練	115,
どうさも生きてくる	動作も生きてくる	64,
どうさもじょうぎをしゆたい	動作も上座を主体	176,
どうさもひだりさばき	動作も左さばき	176,
どうさをくりかえし	動作を繰り返す	157,
どうじでなければ	同時でなければ	156,
どうじにおとやをぬきとり	同時に乙矢をぬきとり	164,
どうじにききょしんたい	同時に起居進退	157,
どうじにしゃいに	同時に射位に	156,
どうじにそろっておこなう	同時にそろって行う	158,
どうじに、つぎのしゃしゅがたちあがる	同時に、次の射手が立ち上がる	158,
どうじにわきしょうめんむきをかえ	同時に脇正面に向きを変え	159,
どうしゃ	堂射	30,
どうじょうないでのあるきかた	道場内での歩き方	75,
どうじょうのこうきょう	道場の広狭	176,
とうそうのため	闘争のため	26,
とうそうのためのぶき	闘争のための武器	24,
どうづくり	胴造り	104,107,109,123,135,
どうづくりがくずれぬよう	胴造りがくずれぬよう	71,
どうづくりにちゅうい	胴造りに注意	69,
どうづくりのかんせい	「胴造り」の完成	63,
どうづくりのきそ	胴造りの基礎	106,
どうづくりのくずれぬよう	「胴造り」のくずれぬよう	111,
どうづくりののちとりや	「胴造り」ののち取矢	135,137,
どうづくりはがいけんてきにはたんじゅ	「胴造り」は外見的には単純	108,
どうづくりはしゃいからのどうさではない	「胴造り」は射位からの動作ではない	63,
どうづくりはしゅうしぎょうしゃのこんかん	胴造りは終始行射の根幹	108,
どうづくりやとりかけにむいみなじかん	「胴造り」や「取懸け」に無意味な時間	168,
どうづくりをくずさず	「胴造り」をくずさず	73,90,
どうづくりをくずさないよう	胴造りをくずさないよう	70,
どうづくりをくずさぬよう	「胴造り」をくずさぬよう	79,
どうづくりをただしく	「胴造り」を正しく	82,
どうづくりをたもち	「胴造り」を保ち	72,94,
どうづくりをたもちつつ	胴造りを保ちつつ	163,
どうのきをもたせる	「動」の気をもたせる	75,
どうはい	同輩	82,

とうめいせい	透明性	18-1,
とうよう	東洋	21,22,47,
どうようをかんじ	動揺を感じ	11,
どうようしないように	動揺しないように	188,
とうようてきせいかく	東洋的性格	47,
とうようてきとくちょう	東洋的特徴	46,
とうれい	答礼	132,
とおくにおちたばあい	遠くに落ちた場合	172,
とおくにとんだとき	遠くに飛んだとき	173,
とがげば	外掛羽	192,
とがしら	籐頭	190,
とがしらにそえ	籐頭に添え	133,
とがしらのあたり	籐頭のアたり	91,134,
ときのすい	時の推移	15,
ときのながれ	時の流れ	17,
ときとばのじょうきょう	時と場の状況	162,169,
とくいなてん	得意な点	26,
とくがわじだい	徳川時代	53,
どくじのしゃれい	独自の射礼	130,
とくしゅせい	特殊性	21,
とくしゅなもの	特殊なもの	29,
とくしよく	特色	28,
どくぜんてきなあきらめ	独善的なあきらめ	36,
どくぜんてきにりかい	独善的に理解	35,
とくちょう	特長	130,184,185,
とくちょうはたかくひょうか	特長は高く評価	184,
とくちょうをはっき	特長を発揮	12,
とくべつのはあいでないかぎり	特別の場合でない限り	176,
とくもくをたいとく	徳目を体得	17,
とくもくをみにつける	徳目を身につける	17,
どくろすうはい	髑髏崇拜	27,
とじかた	とじ方	123,
とだけ	外竹	191,
とっこう	徳行	↓
とっこうたつ	徳行立つ	41,
とっこうをみがく	徳行を磨く	128,
とっこうをみるべし	徳行を観るべし	52,58,
とりあつかいはふべん	取り扱いは不便	31,
とりいがた	鳥居形	188,
とりうち	鳥打	137,138,139,140,163,190,
とりうちのじょうほう	鳥打の上方	181,
とりえない	取り得ない	173,
とりかけ	「取懸け」	109,110,
とりかけごにはずこぼれ	取懸け後に筈こぼれ	174,
とりかけごのしゃのこういちゆう	取懸け後の射の行為中	174,
とりかけでたつてもよい	「取懸け」で立ってもよい	162,169,
とりかけでたつばあいもある	取懸けで立つ場合もある	171,
とりかけのどうさにうつるとき	「取懸け」の動作に移るとき	158,
とりかけをする	取懸けをする	164,170,
とりかたぶし	鳥肩節	191,
とりなどをいるみじかいしょうきゅう	鳥などを射る短い小弓	29,
とりや	取矢	96,135,137,
とりやけものをとるため	鳥や獣を取るため	24,
とりゆみ	執弓	↓
とりゆみのしせい	執弓の姿勢	84,88,
とりゆみのしせいであるくばあい	執弓の姿勢で歩く場合	74,
とりゆみのしせいでさだめのざにたち	執弓の姿勢で定め座に立ち	137,
とりゆみのしせいでさだめのざにちやく	執弓の姿勢で定め座に着座	133,141,
とりゆみのしせいでしゃいにふくし	執弓の姿勢で射位に復し	143,
とりゆみのしせいでたつたばあい	執弓の姿勢で立った場合	89,
とりゆみのしせいでほんざにすすみ	執弓の姿勢で本座に進み	169,
とりゆみのしせいでまつ	執弓の姿勢で待つ	164,
とりゆみのしせいにかえる	執弓の姿勢にかえる	139,
とりゆみのばあい	執弓の場合	89,

どりよくして	努力して	9,
どりよくによって	努力によって	131,
どりよくのるいせき	努力の累積	57,
どりよくをつづける	努力をつづける	13,
とるひつようはない	取る必要はない	173,
な		
ないてき	内的	58,
ないとくをおさめ	内徳を修め	128,
ないぶてきしんぼ	内部的進歩	38,
ないめん	内面	47,
ないめんてきなばくはつりよく	内面的な爆発力	121,
ないめんてきなみんしゆか	内面的な民主化	35,
ないめんてきにしんとう	内面的に浸透	35,
ないようてき	内容的	130,
ないようへんかくではなく	内容変革ではなく	9,
ないようをじゅうじつ	内容を充実	16,
ながいねんげつしようできる	長い年月使用できる	185,
ながいでんしよ	長い伝承	12,
ながいゆみ	長い弓	30,
ながいれきし	長い歴史	26,
なかおしのでのうち	中押しの手の内	124,
なかじかけ	中仕掛	190,
なかすじ	中筋	117,
なかぜき	中関	190,
ながねんにわたりしよがくをあいいく	永年にわたり初学を愛育	9,
なかゆび	中指	109,
なかゆびとくすりゆび	中指と薬指	95,96,
ななこうもく	七項目	104,
ななしやくいじょうもあるゆみ	(七尺)以上もある弓	28,
ななしやくごすん	(七尺五寸)	29,
ななしやくさんずん	(七尺三寸)	29,
ななしやくろくすん	七尺六寸	188,
ななめぜんぼうよりゆみをわたす	斜め前方より弓を渡す	181,
ななめぜんぼうよりわたす	斜め前方より渡す	180,
ななめみぎにぜんしん	斜め右に前進	170,
ななめみぎによせあし	斜め右に寄せ足	143,
なみほこ	並鋒	29,
なめしがわ	鞣し皮	185,
ならのしょうそういん	奈良の正倉院	23,
なんぼうけい	南方系	29,
なんぼうぶんか	南方文化	27,
なんぼうぶんかけんせつのこんきよ	南方文化圏説の根拠	27,
に		
にぎり	「握り」	28,
にぎり	握り	31,
にぎり	握	190,
にぎりかわ	握り皮	91,110,
にぎりかわのところ	握り皮のところ	178,
にぎりのじょうげはだんせいてき	握りの上下は男性的	32,
にぎりはゆみのちゆうおう	「握り」は弓の中央	28,
にぎりをちゆうおうからした	「握り」を中央から下	28,
にぎりをはんぶんからした	握りを半分から下	31,
にぎりをひだりななめに	握りを左斜め	138,
にくのほう	肉の方	191,
に、さんどゆみでひきよせ	二、三度弓で引き寄せ	173,
にしはんげつのくらい	西半月の位	55,
にしやくろくすん	二尺六寸	187,
にすん	二寸	188,
にせんねん	二千年	21,32,
にそくでおこなってもよい	二足で行ってもよい	141,
にそくでとじる	二足で閉じる	141,
にそくでひらいたばあい	二足で開いた場合	141,
にちじょうせいかつ	日常生活	17,45,46,
にちじょうせいかつをほうふに	日常生活を豊富に	34,

にっこうやかき	日光や火気	186,
にとうへんさんかけいがただし	二等辺三角形が正しい	175,
にとうへんさんかけいとなるように	二等辺三角形となるように	89,
にどにやをおくるばあい	二度に矢を送る場合	95,
にのうで	二の腕	115,
にのこし	二の腰	192,
にべ	「にべ」	184,
にべのとくちょうは	「にべ」の特長は	184,
にほきよくせんをかい	二歩曲線を描いて	142,143,
にほん	日本	↓
にほんきゅうとがいこきゅう	日本弓と外国弓	21,
にほんきゅうどうのきそりろん	日本弓道の基礎理論	9,
にほんきゅうどうのはってん	日本弓道の発展	18-2,
にほんきゅうとなんぼうぶんか	日本弓と南方文化	26,
にほんきゅうのげいじゅつてきかち	日本弓の芸術的価値	31,
にほんきゅうのちから	日本弓の力	29,
にほんきゅうのとくしよく	日本弓の特色	27,
にほんきゅうのながさ	日本弓の長さ	29,
にほんじんのせいかく	日本人の性格	38,
にほんじんばかりは	日本人ばかりは	30,
にほんてきなもの	日本的なもの	35,
にほんではむかしから	日本では昔から	176,
にほんのきゅうどうが	日本の弓道が	36,
にほんのきゅうどうについて	日本の弓道について	10,
にほんのきゅうどうは	日本の弓道は	16,128,
にほんのこらいのゆみ	日本の古来の弓	29,
にほんのさいこのもの	日本の最古のもの	23,
にほんのゆみ	日本の弓	21,22,23,28,31,32,
にほんのゆみともっともきょうつう	日本の弓と最も共通	27,
にほんのゆみのうつくしいかたち	日本の弓の美しい形	31,
にほんのゆみのそんすうせい	日本の弓の尊崇性	30,
にほんのゆみのとくちょう	日本の弓の特徴	22,
にほんのゆみのでんとうとそのせい	日本の弓の伝統とその性格	21,
にほんのゆみのはったつ	日本の弓の発達	25,
にほんのゆみやを	日本の弓矢を	26,
にほんのゆみをよくりかい	日本の弓をよく理解	36,
にほんのようなはったつ	日本のような発達	33,
にほんみんぞく	日本民族	22,26,27,
にほんみんぞくだけ	日本民族だけ	28,
にほんみんぞくといつち	日本民族と一致	27,
にめいをひつよう	二名を必要	149,
にんげんかんせいのひつよう	人間完成の必要	16,
にんげんこうどうのげんどうりよく	人間行動の原動力	103,
にんげんのこころ	人間の心	103,
にんげんのこころのはたらき	人間の心の働き	35,
にんげんのしんてきかち	人間の心的価値	38,
にんたい	忍耐	119,
ね		
ねくたい	ネクタイ	190,
ねつい	熱意	131,
ねつぼう	熱望	13,
ねつれつなきょうさん	熱烈な協賛	14,
ねらい	ねらい	119,120,124,
ねらいをさだめる	ねらいを定める	102,
ねんがんする	念願する	12,17,
ねんれいやたいかく	年齢や体格	111,
の		
のきどう	退き胴	107,
のくどう	退く胴	109,
のくどうとする	退く胴とする	123,
のこされたもの	残されたもの	121,
のしらべ	箆調べ	135,
のなかぶし	箆中節	192,
のばし	伸ばし	156,

のびあい	「伸合い」	115,
のびあい	[伸合い]	118,
のびあい	延合い	118,
のびあいてっし	伸合いに徹し	124,
のびあいてっする	伸合いに徹する	119,
のびあいのない	伸合いのない	121,
のびあいのないしゃ	伸合いのない射	118,
のびあいののち	伸合いののち	121,
のりではりかため	糊で張りかため	185,
は		
は	羽	↓
はだけもややひくい	羽丈もやや低い	124,
はのながさ	羽の長さ	124,
ははば	羽幅	124,
はやまのひくい	羽山の低い	124,
ば	場	87,
ばをいかしてつかう	場を生かして使う	176,
はいぶ	背部	115,
はいめん	背面	78,
はいりよ	配慮	157,173,
はかま	袴	190,
はかまのひものいち	袴の紐の位置	89,
はかまのわきなかにいれ	袴の脇中にいれ	93,
はかまのわきなかよりだし	袴の脇中より出し	94,
はかまをはいたとき	袴をはいたとき	89,
はく	吐く	70,71,72,77,78,80,84,
はくがんし	白眼視	35,
ばくはつりよく	爆発力	121,
はごき	羽扱き	142,
はじゃけんしょう	破邪顕正	52,
はしりば	走り羽	192,
はしりばをした	走り羽を下	95,
はず	筈	192,
はずこぼれしたや	筈こぼれした矢	174,
はずこぼれしたやは、あたらぬや	筈こぼれした矢は、あたらぬ矢	174,
はずこぼれのばあい	筈こぼれの場合	174,
はずにもどる	筈にもどる	135,
はずのほうをひだりがわにむける	筈の方を左側に向ける	152,
はずまき	筈巻	192,
はずよりやにそって	筈より矢に沿って	135,
はずをしたにして	筈を下にして	142,
はずをたもち	筈を保ち	135,137,178,
はずをたもつ	筈を保つ	155,183,
はずをちゅうしんとし	筈を中心とし	135,
はずをひだりがわにむけ	筈を左側に向け	180,
はずをもったまま	筈をもったまま	183,
はずをもっておくる	筈をもって送る	95,
はすえ	葉末	120,
はずかむりぶし	弭冠節	191,
はせがわによぜかん	長谷川如是閑	31,44,
はそもおおかった	破損も多かった	30,
はだ	肌	↓
はだいれ	肌いれ	93,
はだいれどうさ	肌いれ動作	93,
はだいれどうさのじゅんじょ	肌いれ動作の順序	93,
はだいれするとき	肌いれするとき	94,
はだいれをおわる	肌いれを終わる	161,
はだぬぎ	肌ぬぎ	134,
はだぬぎどうさ	肌ぬぎ動作	90,
はだぬぎどうさのこうさんしょう	肌ぬぎ動作の項参照	136,
はだぬぎのこうさんしょう	肌ぬぎの項参照	133,
はだぬぎのじゅんじょ	肌ぬぎの順序	90,
はだぬぎをてつだうばあい	肌ぬぎを手伝う場合	150,
はだのぬぎいれ	肌の脱ぎいれ	158,

はだのぬぎいれにともなう	肌の脱ぎいれに伴う	137,140,144,
はだのぬぎいれをおこなうあいだ	肌の脱ぎいれを行う間	164,
はだをいれ	肌をいれ	136,139,140,142,157,
はだをいれる	肌をいれる	143,159,161,
はだをいれるときのようい	肌をいれるときの用意	90,
はだをぬぎ	肌をぬぎ	133,136,137,141,143,154,
はだをぬぐ	肌をぬぐ	134,155,
はだをぬぐばあい	肌をぬぐ場合	90,
はっかんのことば	発刊のことば	11,
はっき	発揮	162,
はくつづつ	発掘物	23,
はっけん	発見	21,
はっしゃ	発射	120,
はっしゃのうつわ	発射の器	22,
はっしゃのかたち	発車の形	22,
はっしゃのきをじゅくさせる	発射の機を熟させる	115,
はっすん	八寸	188,
はっせつ	八節	104,
はったつ	発達	22,33,
はってん	発展	128,
はなかぶし	羽中節	192,
はなさるる	放さるる	119,
はなされる	離される	120,
はなすのではなく	離すのではなく	120,
はなつ	放つ	119,
はなれ	放れ	119,
はなれ	離れ	57,101,104,120,
はなれがしょうずる	「離れ」が生ずる	120,
はなれたあとのざんしん	離れたあとの残身	55,
はなれたしゅんかん	離れた瞬間	172,
はなれたやさきのするどさ	離れた矢先の鋭さ	55,
はなれでただちにどうさにつらな	離れで直ちに動作に移らない	155,
はなれなければならぬ	離れなければならぬ	118,121,
はなれにうつる	離れに移る	55,
はなれにおおきくえいきょうする	「離れ」に大きく影響する	112,
はなれによって	離れによって	121,
はなれのけっかのれんぞく	「離れ」の結果の連続	122,
はなれのしせいをくずさず	「離れ」の姿勢をくずさず	122,
はなれのちよくぜんのじょうたい	「離れ」の直前の状態	118,
はなれはけいみょう	離れは軽妙	121,
はなれはしぜんのはなれ	「離れ」は自然の離れ	120,
はなれははっしゃ	「離れ」は発射	120,
はなれをしめした	離れを示した	55,
はなれをしょうずる	「離れ」を生ずる	120,
ばにおうじて、ほんざをさだめる	場に応じて、本座を定める	175,
はねがついていない	羽がついていない	189,
はねをまとのほうに	羽を的のほうに	95,
ばのしょうあく	場の掌握	101,
ばのじょうきょうにおうじ	場の状況に応じ	175,
ばびろん	バビロン	24,
ばびろんじん	バビロン人	27,
はや	甲矢	94,95,96,
はや	(甲矢)	192,
はや・おとや	甲矢・乙矢	96,143,
はや・おとやをみわけながら	甲矢・乙矢を見分けながら	94,
はやとおとやがへいこう	甲矢と乙矢が平行	95,
はやとはんたい	甲矢と反対	95,
はやにおいて	甲矢において	184,
はやのごとくいはなつ	甲矢の如く射放つ	136,
はやのほうから	甲矢の方から	142,
はやのようい	甲矢のように射	136,
はやのよういいはなつ	甲矢のように射放つ	140,141,142,
はやはみぎ	甲矢は右	144,146,
はやをいおわったならば	甲矢を射終わったならば	164,

はやをいおわって	甲矢を射終わって	160,171,
はやをいおわっても	甲矢を射終わっても	136,
はやをいおわれれば	甲矢を射終われば	156,
はやをいたのち	甲矢を射たのち	136,
はやをいはなち	甲矢を射放ち	135,137,
はやをいる	甲矢を射る	139,143,148,
はやをつがえ	甲矢を番え	133,137,
はやけ	早気	119,
はり	張り	114,
はれのばしよ	晴れの場所	128,
はんがん	半眼	63,
はん・くつ・けい・たい・ちゆう	反・屈・懸・退・中	108,
はんせい	反省	17,43,
はんそく	半足	72,
はんどうりよく	反動力	99,
はんぽふみだし	半歩踏み出し	146,
はんぽふみひらき	半歩踏み開き	106,
はんまとのすんぼう	半的の寸法	187,
はんまとのちゆうしん	半的の中心	188,
はんまとのつりかた	半的の吊り方	188,
はんまとをしようするばあい	半的を使用する場合	187,
ひ		
び	美	43,
ひかえ	控	192,
ひかえ	控え	193,
ひかえ	「控え」	154,
ひかえかざり	(控飾)	192,
ひかえる	控える	148,
ひかえしやしゆ	控え射手	171,
ひかえしやしゆのあるばあい	控え射手のある場合	170,171,
ひかえしやしゆのさまたげにならぬよう	控え射手のさまたげにならぬよう	171,
ひかえじよのないばしよ	控え所のない場所	189,
ひかえのみぎをまわってたいしゆつ	控えの右を回って退出	170,
ひかがみ	膝膕	117,
ひかてきはったつ	比較的発達	32,
ひかげのかぜとおしのよいところ	日陰の風通しのよいところ	186,
ひかぬやづか	引かぬ矢束	119,
ひかぬやづかをしゅうれん	「引かぬ矢束」を修練	119,
ひかぬやづかをたいとく	引かぬ矢束を体得	119,
ひきおさめ	引きおさめ	114,
ひきこむ	引き込む	119,
ひきとり	引取り	112,
ひきわけ	引分け	104,112,113,115,124,
ひきわけのさいのおしひきのこころえ	引分けの際の押し引きの心得	54,
ひきわけのかんせいされたじょうたい	「引分け」の完成された状態	115,
ひきわけのどうさ	「引分け」の動作	114,
ひきわけのみつつのようしき	引分けの三つの様式	112,
ひきわけのりょうひ	「引分け」の良否	112,
ひきわけはおしひきあいたいおうし	引分けは押し引き相対応し	54,
ひきわける	引分ける	113,114,115,
ひぐちみのる	樋口実	10,
ひくときはみぎあしから	引くときは右足から	176,
ひくときはじょうぎのほうのあしから	引くときは上座の方の足から	176,
ひくやづか	引く矢束	119,
ひげかん	卑下感	119,
ひごうりせい	非合理性	46,
ひごうりてき	非合理的	46,47,
ひざ	膝	100,
ひざかんせつのうらがわ	膝関節の裏側	117,
ひざのかんかく	膝の間隔	69,74,
ひざはゆかにつく	膝は床につく	73,
ひざをいかす	膝を生かす	69,70,73,74,
ひざをじく	膝を軸	73,
ひざをひらき(わり)	膝を開き(割り)	165,

ひざをまげない	膝をまげない	73,
ひざがしら	膝頭	71,
ひざがしらかん	両膝頭間	68,
ひざがしらとへいこう	膝頭と平行	82,
ひざがしらとゆかとのかんかく	膝頭と床との間隔	69,
ひざがしらにおくこと	膝頭におくこと	179,
ひざがしらにきゆうじゅうど	膝頭に九十度	77,
ひざがしらにせつするいち	膝頭に接する位置	82,
ひざがしらにならべて	膝頭にならべて	80,
ひざがしらのかんかく	膝頭の間隔	67,
ひざがしらのせんじょう	膝頭の線上	79,
ひざがしらのまえまたはわき	膝頭の前または脇	82,
ひざがしらをあげる	膝頭をあげる	70,
ひざがしらをつけ	膝頭をつけ	72,
ひざがしらをゆかにつけ	膝頭を床につけ	72,
ひざがしらをしめ	膝頭をしめ	65,
ひざがしらをそろえ	膝頭をそろえ	72,
ひじ	肘	100,
ひじさきはからだにそってだす	肘先は体に沿って出す	92,
ひじさきよりだす	肘先より出す	134,
ひじさきをいれる	肘先をいれる	95,
ひじのはたらき	肘の働き	117,
ひじはそのまま	肘はそのまま	92,
ひじははらず	肘は張らず	68,
ひじをはらず	肘を張らず	89,179,
ひじをはらない	肘を張らない	67,81,
ひじゅうはかわらない	比重は変わらない	9,
びしゅうはんし	尾州藩士	53,
びじゅつ	美術	43,
ひしょうりよく	飛翔力	110,
ひたいのやくひとこぶし	額の約一拳	114,
ひたいのたかさ	額の高さ	82,
ひだりあし	左足	↓
ひだりあしからたって	左足から立って	135,
ひだりあしはしぜんに	左足は自然に	77,
ひだりあしよりしっこうし	左足より膝行し	152,
ひだりあしよりまとにすすむ	左足よりのに進む	150,
ひだりあしをいかし	左足を生かし	136,
ひだりあしをひきそろえる	左足を引きそろえる	123,
ひだりあしをふみこむ	左足を踏み込む	140,
ひだりかたにおおう	左肩におおう	94,
ひだりこぶしとゆみのひだりがわ	左拳と弓の左側	120,
ひだりこぶしのたかさ	左拳の高さ	120,
ひだりこぶしはこしにつけたまま	左拳は腰につけたまま	177,
ひだりしゃめん	左斜面	111,
ひだりしゃめんにうちおこし	左斜面に打起し	113,
ひだりて	左手	↓
ひだりてこぶし	左手拳	92,114,
ひだりてさき	左手先	95,
ひだりてさきをそろえ	左手先をそろえ	94,
ひだりてできゆうはのした	左手で弓弦をとる	179,
ひだりてできゆうはをとる	左手で弓弦をとる	137,138,143,146,
ひだりてできゆうはをにぎり	左手で弓弦を握り	88,178,
ひだりてできゆうはをもったまま	左手で弓弦をもったまま	142,
ひだりてでそですりぶしのしたを	左手で袖摺節の下を	180,
ひだりてでまきをらをおさえ	左手で巻藁を押え	142,145,
ひだりてにうつし	左手に移し	133,136,
ひだりてにきゆうはをとる	左手に弓弦をとる	140,
ひだりてにちみぎてでわにまき	左手に持ち右手で輪にまき	173,
ひだりてにゆみ	左手に弓	24,
ひだりてのこぶし	左手の拳	91,
ひだりてのつのみ	左手の角見	118,
ひだりてのひとさしゆびとなかゆびのあ	左手の人差指と中指の間	94,
ひだりてはきゆうはのした	左手は弓弦の下	181,182,

ひだりてはもものうえ	左手は腿の上	153,
ひだりてはこしのへん	左手は腰の辺	177,
ひだりてをかいちゆうし	左手を懐中し	92,
ひだりてをそでぐちにいれ	左手を袖口に入れ	133,
ひだりてをものつけね	左手を腿のつけ根	91,133,136,
ひだりのひざがしらにおく	左の膝頭におく	179,
ひだりのひざをゆかにつけ	左の膝を床につけ	165,
ひだりはしもぎ	左は下座	176,
ひだりひざがしら	左膝頭	108,109,
ひだりひざをいかす	左膝を生かす	133,136,177,
ひだりよりさんぼこうたい	左より三歩後退	151,
ひだりよりさんぼすすんで	左より三歩進んで	142,
ひだりよりすすむことはしもぎよりすすむ	左より進むことは下座より進むこと	176,
ひだりわきにはこんで	左脇に運んで	133,136,140,143,146,
ひっかけぶし	引掛節	191,
ひつぜんてきにもんだい	必然的に問題	11,
びてき	美的	22,
びてきかちをぐげん	美的価値を具現	38,
びてきかんかく	美的感覚	44,
びてきせいかく	美的性格	38,
びてきせいかくとみち	美的性格と道	38,
びてきそんげん	美的尊厳	38,
ひといき	一息	↓
ひといきしたころをみはかり	一息したころをみはかり	164,
ひといきでまわる	一息で回る	78,
ひといきののち	一息ののち	93,94,135,142,
ひとこぶしないしふたこぶし	一拳ないし二拳	114,
びとう	鼻頭	63,66,67,68,80,
ひとさしゆび	人差指	68,80,88,89,109,
ひとつのしゃじょうですうくみがきょうしゃ	一つの射場で数組が競射	171,
ひとつのしゃじょうでふたくみがきょうぎ	一つの射場で二組が競技	172,
ひとつのまどにたいし	一つの的に対し	175,
ひとつまと	一つの的	132,
ひとつまとざしやれい	一つの的坐射礼	133,154,
ひとつまとざしやれいのばあい	一つの的坐射礼の場合	184,
ひとつまとでおこなうしゃれい(しんたい)	一つの的で行う射礼(進退の順序)	154,
ひとつまとでおこなうばあい	一つの的で行う場合	154,
ひとつまとでしゃれい	一つの的で射礼	157,
ひとつまとのまあい	(一つの的の間合)	162,
ひとて	一手	96,182,
ひとていおわってきざ	一手射終わって跪坐	143,
ひとてのはずをもつ	一手の筈を持つ	183,
ひとてをとって	一手をとって	183,
ひとのたいく	人の体軀	32,
ひねりかわ	捻皮	192,
びのたいしょう	美の対象	32,
びみょうなちょうわ	微妙な調和	32,
ひめぞり	姫反	190,
ひめぞり	「姫反り」	32,
ひめぞりぶし	姫反節	191,
ひも	紐	192,
ひょうかがんもしんぼ	評価眼も進歩	16,
ひょうぎいん	評議員	14,
ひょうげんのうえに	表現の上に	9,
ひょうじゅん	標準	29,
びょうしょうにけんじた	病床に献じた	23,
びょうどう	平等	43,
ひょうひのほう	表皮の方	191,
ひらきあし	開き足	61,77,78,79,152,153,
ひらきあしにてむきをかえる	開き足にて向きを変える	177,
ひらきかた	開き方	123,
ひろくせんでん	広く宣伝	128,
ひんい	品位	58,59,130,
ひんいかくちょう	品位格調	122,129,

ひんかくのあるしゃ	品格のある射	16,
ふ		
ぶ	分	186,
ふあん	不安	119,
ふあんていのじょうたい	不安定の状態	107,
ふうかく	風格	58,59,
ふうせんがはれつ	風船が破裂	118,
ふうちょう	風潮	57,
ふかいれい	深い礼	80,82,83,85,147,
ふかいれいいがい	深い礼以外	86,
ふかのう	不可能	13,
ぶき	武器	24,31,57,
ぶきというがいねん	武器という概念	27,
ふきゆう	普及	15,21,
ぶぐ	武具	38,
ふくすうのばあい	複数の場合	141,
ふくそう	服装	60,190,
ふくそうについて	服装について	189,
ぶけのりんり	武家の倫理	40,
ふさず	伏さず	89,
ふしぜん	不自然	90,
ふしぜんなゆだおし	不自然な弓倒し	122,
ぶしどう	武士道	40,
ぶしのとつき	武士の徳器	23,
ぶしゃけいとう	武射系統	154,
ふじんがしゃれいをおこなうばあい	婦人が射礼を行う場合	147,
ふじんのしゃしゆ	婦人の射手	162,164,
ふじんのしゃれい	婦人の射礼	147,
ふぜい	風情	112,
ふそう	「不爭」	36,43,
ふたこぶし	二拳	69,
ふたつのほうほうのいずれをしゅうとく	二つの方法のいずれを習得	177,
ふたりいじょうでおこなうざしゃれい	二人以上で行う坐射礼	154,
ふたりいじょうでおこなうたちしゃれい	二人以上で行う立射礼	162,
ふたりいじょうでしゃれい	二人以上で射礼	184,
ぶつきようご	仏教語	120,
ふっきん	腹筋	115,
ふっきんとこしのたんれん	腹筋と腰の鍛練	115,
ふっこ	復古	37,
ふっしょく	払拭	119,
ぶつよく	物欲	39,
ふどうしんのれんぞく	不動心の連続	119,
ふとったたいかく	太った体格	66,
ぶのかまえ	武の構え	80,
ふべん	不便	31,
ふべんをしのび	不便を忍び	28,
ふべんをしのんだ	不便を忍んだ	28,
ふみひらく	踏み開く	106,
ふよういなどうさ	不用意な動作	102,
ふりいったい	不離一体	120,
ふりいったいのしゃ	不離一体の射	127,
ふるいけいけんをそんちょう	古い経験を尊重	37,
ぶん	分	60,
ぶんがく	文学	43,
ぶんぶけんび	文武兼備	53,
ぶんぷじょうたい	分布状態	22,
へ		
へいじょうしん	平常心	43,118,
へいせい	平静	43,
へいわ	平和	43,
へいわてき	平和的	37,
へき	日置	127,
へんかく	変革	
へんきなせい	編奇な姿勢	100,

へんしゅう	編集	9,
へんしゅういいん	編集委員	14,
ほ		
ほ	歩	75,
ほうじ	捧持	179,
ぼうし	帽子	192,
ぼうしかざり	帽子飾	192,
ほうしきはことなっている	方式は異なっている	176,
ぼうしゃ	亡射	127,
ほうしんやほうほう	方針や方法	16,
ほうてんともなりうる	宝典ともなりうる	12,
ほお	頬	114,
ほおすりば	(頬摺羽)	192,
ほおづけ	頬づけ	114,116,
ほこうしてきざ	歩行して跪坐	173,
ほこうちゅう	歩行中	76,
ほこうちゅうのまわりかた	歩行中の回り方	61,76,
ほこづまり	「銚づまり」	30,
ぼし	拇指	↓
ぼしがあたるいち	拇指があたる位置	89,
ぼしがしら	拇指頭	80,
ぼしこん	拇指根	118,
ぼしとひとさしゆびでかるくおさえ	拇指と人差指で軽く押え	89,
ぼしとひとさしゆびでわ	拇指と人差指で環	88,
ぼしにてそでやまのないめんをすり	拇指にて袖山の内面をすり	91,
ぼしはかさねないで	拇指は重ねないで	68,
ぼしはそでぐちからださない	(拇指は袖口から出さない)	91,
ぼしははねるよう	拇指ははねるよう	109,
ぼしをおさえ	拇指を押え	109,
ぼしをかさね	拇指を重ね	67,72,
ぼしをつるにかけ	拇指を弦にかけ	109,
ほじしているだけ	保持しているだけ	119,
ほしのかんざえもん	星野勘左衛門	53,
ほしまと	星的	187,
ほしまとのきかく	星的の規格	187,
ほすう	歩数	74,
ほすうをおおくとる	歩数を多くとる	175,
ほせいかひつ	補正加筆	16,
ほせいしゅうせい	補正修正	130,
ほせいぞうほ	補正増補	18-1,
ほはば	歩幅	75,175,
ほんのう	煩惱	58,
ほんざ	本座	193,
ほんざからしやい	本座から射位	162,
ほんざからたいしゆつするとき	本座から退出するとき	162,
ほんざ(しやいのやくにほてまえ)	本座(射位の約二歩手前)	137,
ほんざでからだのかまえをととのえ	本座で体の構えを整え	161,
ほんざできそくをととのえ	本座で氣息を整え	136,
ほんざでぜんいんはだをぬぐ	本座で全員肌をぬぐ	159,
ほんざでのゆう	本座での揖	134,
ほんざではだのぬぎいれ	本座で肌のぬぎいれ	131,136,
ほんざではだをいれる	本座で肌をいれる	135,
ほんざではだをぬぐばあい	本座で肌をぬぐ場合	133,
ほんざではだをぬぐばあいのざしやれい	「本座で肌をぬぐ場合の坐射礼」	158,
ほんざでまっとうけとる	本座で待つて受け取る	180,
ほんざとしやいのきより	本座と射位の距離	175,
ほんざにいるしやしゆ	本座にいる射手	158,
ほんざにおいてかいぞえは	本座において介添は	180,
ほんざにおいてさだめのざのさほう	本座において定め座の作法	175,
ほんざにおいてれつがみだれないよう	本座において列が乱れないよう	162,
ほんざにおけるしやしゆとかいぞえのい	本座に於ける射手と介添えの位置	149,
ほんざにおけるゆう	本座における揖	86,147,
ほんざにかえり	本座に帰り	161,
ほんざにきざ	本座に跪坐	135,136,156,157,158,174,

ほんざにこうたい	本座に後退	75,136,140,148,157,159,160,162,164
ほんざにこうたいせず	本座に後退せず	136,
ほんざにしりぞき	本座に退き	158,184,
ほんざにすすみ	本座に進み	133,136,169,
ほんざのと리카た	本座のと리카方	175,
ほんざのゆう	本座の揖	87,134,
ほんざはしやいよりゆんめーとる	本座は射位より四メートル	175,
ほんざへのこうたいとどうじ	本座への後退と同時	156,
ほんざよりしやいへすすみ	本座より射位へ進み	158,
ほんざよりすすむ	本座より進む	75,
ほんざをさだめる	本座を定める	175,
ほんざをややみぎななめこうほうにとる	本座をやや右斜め後方にとる	157,

ま

ま	間	64,168,
まあい	間合い	62,156,164,168,
まあい・いきあい・きあいがいっち	間合い・息合い・気合いが一致	157,
まあい・いきあい・きあいとうにちゆうい	間合い・息合い・気合い等に注意	162,
まあい・きあいががっち	間合い・気合いが合致	155,
まあい・きあいがかんぜんにいっち	間合い・気合いが完全に一致	151,
まあいをはかり	間合いをはかり	164,
まあいをはかる	間合いをはかる	164,
まがたいせつ	間が大切	64,
まがのびないよう	間が伸びないよう	153,
まがみだれないよう	間が乱れないよう	64,
まにちゆうい	間に注意	153,
まえのしやしゆがたてばつぎのしやしゆも	前の射手が立てば次の射手も立ち	170,
まえのしやしゆのあたまをうたないよう	前の射手の頭を打たないよう	178,
まえのしやしゆのみぎがわに	前の射手の右側に	182,
まえのたちのさんばんのおとやのつるね	前の立の三番の乙矢の弦音	171,
まがったたけ	曲がった竹	185,
まきわら	巻藁	↓
まきわらしやれい	巻藁射礼	131,132,141,
まきわらしやれいのこうさんしょう	巻藁射礼の項参照	189,
まきわらしょうめん	巻藁正面	142,143,
まきわらせんようのや	巻藁専用の矢	189,
まきわらだいがふあんていのばあい	巻藁台が不安定の場合	142,
まきわらだいにたてかける	巻藁台に立て掛ける	142,
まきわらだいのひだりがわにまわる	巻藁台の左側に回る	145,
まきわらだいのみぎがわにたてる	巻藁台の右側に立てる	145,
まきわらだいをつくり	巻藁台を作り	144,
まきわらにたいしたばあい	巻藁に対した場合	189,
まきわらについて	巻藁について	189,
まきわらにむかってのけいこはたいせ	巻藁に向かつての稽古は大切	189,
まきわらのおおきさ	巻藁の大きさ	144,189,
まきわらのたかさ	巻藁の高さ	144,
まきわらのちゆうしんのたかさ	巻藁の中心の高さ	144,
まきわらのひだりがわに	巻藁の左側に	142,
まきわらのみぎがわにたてかけ	巻藁の右側に立て掛け	142,
まきわらまえざしやれいとおなじ	巻藁前坐射礼と同じ	146,
まきわらまえのしやれい	巻藁前の射礼	145,
まきわらまえゆみいちじょう	巻藁前弓一丈	141,142,
まきををらをおさえ	巻藁を押え	142,
まきわらをよこにしてしよう	巻藁を横にして使用	144,
まぐすね	「まぐすね」	186,
まこと	誠	↓
まことのころ	誠の心	79,
まことをつくし	誠を尽くし	103,
まことをつくす	「誠」をつくす	17,
まことをつくす	誠をつくす	58,128,
まさつねつ	摩擦熱	186,
また	股	192,
またのあいだにいれない	股の間に入れない	179,
まちだかのはかま	襠高の袴	190,
まっくす・エーンす	マックス・エーンす	30,

まつる	祭る	27,
まと	的	↓
まとぐし	的串	188,
まとしょうめん	的正面	192,
まとしょうめんからわきしょうめんに	的正面から脇正面に	177,
まとしょうめんにむかい	的正面に向かい	154,
まとしょうめんにむかいつつ	的正面に向かいつつ	123,
まとしょうめんにむかって	的正面に向かって	136,156,
まとしょうめんにむきなおり	的正面に向きなおり	157,
まとしょうめんにむきをかえ	的正面に向きをかえ	135,154,
まとしょうめんにむきをかえつつ	的正面に向きをかえつつ	136,161,
まとしょうめんにむきをかえながら	的正面に向きをかえながら	139,140,
まとといっちょくせんじょうにふみひらく	的と一直線上に踏み開く	163,
まととのむすびつき	的との結びつき	87,
まとにうつし	的に移し	135,
まとにたいする	的に対する	119,
まとについて	的について	186,
まとにつうずる	的に通ずる	91,
まとにむかって	的に向かって	133,137,
まとのかけかた	的のかけ方	187,
まとのしゅるい、おおきさ	的の種類、大きさ	188,
まとのせっちほうほう	的の設置方法	188,
まとのちゅうしん	的の中心	114,187,
まとのちゅうしんせん	的の中心線	119,
まとのちゅうしんてん	的の中心点	120,
まとのちゅうしんといっちょくせんじょう	的の中心と一直線上	105,
まとのほうこうにかるくのばす	的の方向に軽く伸ばす	91,
まとのほうにむけ	的の方に向け	181,
まとのねらい	的のねらい	116,
まとまえ	的前	120,124,186,
まとまえざしやれいのこうさんしょう	的前坐射礼の項参照	141,
まとまえしやれい	的前射礼	131,132,
まとまえたちしやれいとどうよう	的前立射礼と同様	146,
まとまえたちしやれいのさほうで	的前立射礼の作法で	146,165,
まとまえのあしづみ	的前の足踏み	123,
まとよりにほまではまとをじょうざ	的より二歩までは的を上座	150,
まとをひとつとすることがげんそく	的をひとつとすることが原則	163,
まとをひとつとするばあい	的をひとつとする場合	131,163,
まとをみるとき	的を見るとき	102,
まのびしないようこうたい	間のびしないよう後退	173,
まるいき	丸い木	188,
まるきゆみ	丸木弓	29,
まるくびしゃつ	丸首シャツ	190,
まれ	稀	21,
まわる	回る	64,
まわるほうこうにいをそそぎ	回る方向に意を注ぎ	77,
まんしゅう	満州	22,
まんをじし	満を持し	115,
み		
みいき	三息	81,84,
みかいたみのなかには	未開の民の中には	30,
みかいたみのりょうぐ	未開の民の獵具	32,
みぎあし	右足	↓
みぎあしにひひそろえる	右足に引きそろえる	123,
みぎあしにより	右足に寄り	77,
みぎあしよりさんぼしりぞきながら	右足より三歩退きながら	143,
みぎあしよりはんぱずつ	右足より半歩ずつ	123,
みぎあしよりひらき	右足より開き	151,
みぎあしをはんぱふみだし	右足を半歩踏み出し	142,143,144,
みぎあしをもとにふくし	右足をもとに復し	142,
みぎあしよりもとのいちにかえる	右足より元の位置に帰る	151,
みぎかかと	右踵	77,
みぎかたさき	右肩先	114,
みぎかたてしけんれい	右片手指建礼	153,

みぎかたのうえ	右肩の上	91,92,
みぎかたのひざをまげ	右方の膝をまげ	165,
みぎこうほうよりこしにそって	右後方より腰に沿って	181,
みぎて	右手	↓
みぎてこぶし	右手拳	114,
みぎてこぶしをこしのへんにおく	右手拳を腰の辺におく	183,
みぎてさき	右手先	115,
みぎてでいつけぶしのしたを	右手で射付節の下を	180,
みぎてでさんどはごき	右手で三度羽扱き	145,
みぎてでつるをかえし	右手で弦を返し	133,
みぎてでつるをひく	右手で弦を引く	24,
みぎてでとりうちのへん	右手で鳥打の辺	137,138,139,140,
みぎてではやのほうから	右手で甲矢の方から	142,
みぎてでめつけぶしのへん	右手で目付節の辺	144,146,
みぎてでもとははずを	右手で本弭を	179,
みぎてでやのはずをたもち	右手で矢の筈を保ち	178,
みぎてでわにまき	右手で輪にまき	
みぎてにもちかえ	右手に持ちかえ	141,
みぎてにもって	右手に持って	143,
みぎてのこうをうえに	右手の甲を上	96,
みぎてのこうをしたに	右手の甲を下	96,
みぎてのこゆびとくすりゆび	右手の小指と薬指	88,89,
みぎてのぜんぱくとつるがちよっかく	右手の前膊と弦が直角	110,
みぎてはゆみにそってじょうほうに	右手は弓に沿って上方に	181,
みぎてはゆみのとりうちのじょうほう	右手は弓の鳥打の上方	181,
みぎてはゆみのもとははず	右手は弓の本弭	181,
みぎてをうごかさず、そのままうけとる	右手を動かさず、そのまま受け取る	181,
みぎてをおくいち	右手をおく位置	83,
みぎてをこしのへん	右手を腰の辺	137,
みぎてをそえる	右手を添える	142,
みぎてをとがしらにそえ	右手を籐頭に添え	133,136,
みぎてをみぎこしのへん	右手を右腰の辺	133,
みぎてをめつけぶしのあたり	右手を目付節のあたり	143,
みぎてをめつけぶしのへん	右手を目付節の辺	137,138,139,
みぎてをめつけぶしまでさげ	右手を目付節まで下げ	140,
みぎてをやにそって	右手を矢に沿って	95,
みぎてをゆみのそとがわにはこび	右手を弓の外側に運び	94,
みぎひざ	右膝	77,
みぎひざをいかし	右膝を生かし	91,133,136,
みぎひじ	右肘	↓
みぎひじがさがる	右肘がさがる	90,
みぎひじでひく	右肘で引く	115,
みぎひじのはりあい	右肘の張合い	118,
みぎよりひくことは	右より退くことは	177,
みぎわきした	右腋下	94,95,
みぎわきにおく	右脇に置く	174,
みぎわきにはこぶ	右脇に運ぶ	183,
みぐるしい	見苦しい	184,
みずけをきらう	水気を嫌う	185,
みずのひくきにながれるよう	水の低きに流れるよう	114,
みち	みち	42,
みち	道	119,
みちかにあるとき	身近にあるとき	173,
みちにはりんりがともなう	「道」には倫理が伴う	38,
みちへすすんだ	「道」へ進んだ	38,
みちをひらいた	「道」を開いた	38,
みつかけ(がけ)	三つ弾	96,109,185,
みつめる	みつめる	102,
みてぐりにぬき	三手繰り抜き	151,
みてぐりにぬきだし	三手繰り抜き出し	142,
みてぐりにぬく	三手繰り抜く	145,
みなもとのよしいえ	源義家	23,
みなり	身形	62,
みみたぶ	耳たぶ	65,

みょうみ	妙味	121,
みんしゆか	民主化	35,
みんしゆかとりんりせい	民主化と倫理性	35,
みんしゆてきであり	民主的であり	37,
みんしゆてきなあたらしいきゆうどう	民主的な新しい弓道	11,
みんぞく	民族	27,28,30,
みんぞくがくしゃ	民俗学者	30,
みんぞくがくてきしりょう	民俗学的資料	23,
みんぞくのあいぶ	民族の愛撫	32,
む		
む	無	47,
むいしき	無意識	102,
むいみなじかんをついやすことのない	無意味な時間を費やすことのないよう	168,
むげんのひきわけ	無限の引分け	115,
むじゃのしんきょう	無邪の心境	127,
むふうたい	無風帯	112,
むかいば	向羽	192,
むかしのきゆうどう	昔の弓道	34,
むかってみぎはかみざ	向かって右は上座	176,
むすび	(むすび)	17,
むなづるといふ	(胸弦といふ)	114,
むね	胸	↓
むね、かたをらくにする	胸、肩を楽にする	67,68,
むねのきんこつ	胸の筋骨	114,
むねのなかすじからさゆうにひらく	胸の中筋から左右に開く	114,
むねのなかすじからさゆうにわれる	胸の中筋から左右に割れる	121,
むねのなかすじよりさゆうにわかれる	胸の中筋より左右に分かれる	118,
むねのなかすじとりょうかたをむすぶせ	胸の中筋と両肩を結ぶ線	101,
むねをひらくように	胸を開くように	118,
め		
め	目	↓
めがしら	目頭	120,
めじり	目尻	120,
めづかい	目づかい	63,99,102,135,
めづかいにちゆうい	目づかいに注意	73,90,94,
めづかいをただしく	目づかいを正しく	65,
めつけ	目つけ	102,
めつけ	目付け	91,92,181,
めつけぶし	目付節	137,138,139,140,143,144,146,191,
めのつかいかた	目の使い方	102,
めはびとうをとおして	目は鼻頭を通して	66,67,68,
めやみみからくるゆうわく	目や耳からくる誘惑	103,
めをしたにうつし	目を下にうつし	106,
めいき	銘記	14,17,
めいげん	「鳴弦」	27,
めいぢちゆうきいご	明治中期以後	127,
めだたぬようにこうどうする	目立たぬように行動する	151,
めて	妻手	↓
めてさんぶんのいちゆみをひく	妻手三分の一弓を引く	54,
めてはじょうはくぶのちからをもちいる	妻手は上膊部の力を用いる	115,
めてばなれ	右手離れ	121,
めてをもってゆみをひく	妻手をもって弓を引く	54,
めて	馬手	115,
めどおりのたかさで	目通りの高さ	178,
めどおりのたかさ	目通りの高さ	178,
めはやどころのちやくてん	眼は矢所の着点	122,
めりやすしゃつ	メリヤスシャツ	190,
めんもくをいっしん	面目を一新	16,
も		
もうこ	蒙古	22,
もうし	孟子	39,
もうしあわせによる	(申し合せによる)	141,
もうそう	妄想	103,
もくてき	目的	135,

もくてきのほうこうにいをそそぎ	目的の方向に意を注ぎ	75,
もくてきをたつする	目的を達する	13,
もくひょうがかわってきた	目標が変わってきた	34,
もくひょうがとりかえられている	目標がとりかえられている	34,
もたれ	もたれ	119,
もちいかた	用い方	185,
もちほこび	持ち運び	28,
もちまと	持的	↓
もちまとざしやれい	持的坐射礼	158,
もちまとでおこなうばあい	持的で行う場合	132,158,
もちまととしてもよい	持的としてもよい	163,
もちまととするばあい	持的とする場合	131,
もとのいちにかえる	元の位置に帰る	153,
もとのいちにこうたい	元の位置に後退	180,
もとはぎ	本矧	192,
もとはず	本弭	190,
もとはずはかならずひさりのひざがしら	本弭は必ず左の膝頭におく	179,
もとはずはひさりひざがしらにおき	本弭は左膝頭におき	108,137,
もとはずよりしやしゆのひだりわきに	本弭より射手の左脇に	182,
もとはずをひさりななめにあげ	本弭を左斜めに上げ	137,
もとはずをひさりひざがしらにおき	本弭を左膝頭におき	109,135,
もとはずをもつ	本弭をもつ	181,
もとはずをもってわたす	本弭をもって渡す	179,
ものみ	物見	63,102,109,
ものみがえし	「物見返し」	162,169,
ものみのふくげんでこしをきり	物見の復元で腰を切り	156,
ものみをかえしたのち、とりかけ	物見をかえしたのち、取懸け	164,
ものみをかえしつつ	物見をかえしつつ	92,
ものみをかえしてひといき	物見をかえして一息	164,
ものみをかえす	物見をかえす	135,137,139,140,164,
ものみをさだめる	物見を定める	111,
ものみをしずかにもどし	物見を静かにもどし	122,
ものをもたないばあい	物を持たない場合	73,
ものをもった	物を持った	69,
もみじがさね	「紅葉重ね」	111,
もも	腿	↓
ももにそうて	腿に沿うて	80,
もものうえ	腿の上	67,68,153,
もものつけねのへん	腿のつけ根の辺	133,136,
もものみぎわき	腿の右脇	82,
もものややぜんぼう	腿のやや前方	66,
もものりょうわき	腿の両脇	80,82,153,
ももだち	股立	93,
もろかけ(がけ)	もろ躰	93,96,185,
もんぷくにまるくびしゃつ	紋服に丸首シャツ	190,
もんめ・ぶ	刃・分	186,
や	矢	185,
や	[矢]	192,
やがただしくまとにあたる	矢が正しく的にあたる	105,
やがはなれていく	矢が離れていく	120,
やごえにはしゆしゆある	矢声には種々ある	145,
やごえをかける	矢声をかける	145,
やさき	矢先	124,
やさきのえんちようせん	矢先の延長線	89,
やさきがあがらぬよう	矢先があがらぬよう	114,
やさきがわずかにひくい	矢先がわずかに低い	113,
やじゃくをとらない	矢尺をとらない	22,
やじゃくをとる	矢尺をとる	22,
やじり	(矢尻)	192,
やずりどう	矢摺籐	91,190,
やずりぶし	矢摺節	191,
やづか	矢束	106,119,
やづかいっぱいにひく	矢束一ぱいに引く	99,114,

やつがえどうさ	矢番え動作	94,
やつがえのとき	矢番えのとき	95,
やつがえののちたって	矢番えののち立って	141,
やつがえをする	矢番えをする	134,138,140,143,148,
やづかをひきのばす	矢束を引き伸ばす	118,
やどころのちやくてん	矢所の着点	122,
やとびたかく	矢飛び高く	107,
やとびひくく	矢飛び低く	107,
やとびをよくするため	矢飛びをよくするため	30,
やとりみち	矢取り道	193,
やとりをたんとうするもの	矢取を担当するもの	149,
やによりそい	矢に寄り添い	142,
やのあたらしいうち	矢の新しいうち	185,
やのうけわたし	矢の受渡し	152,
やのうけわたしについて	矢の受け渡しについて	180,
やのうけわたしをおえ	矢の受渡しを終え	152,
やのうちこみかた	矢の打ち込み方	144,
やのぎょうかく	矢の仰角	123,
やのけいちょう	矢の軽重	120,
やのせんたん	矢の先端	89,
やのそくど	矢の速度	110,
やのところ	矢のところ	142,
やのなかほど	矢の中ほど	95,
やのぬきとり	矢のぬきとり	146,
やのね	矢の根	88,
やのはこびかた	矢の運び方	153,
やのはなれたあとのしせい	矢の離れたあとの姿勢	121,
やのほうこうをちゆうい	矢の方向を注意	135,
やのめかた	矢の目方	124,
やのめかたのけいちょう	矢の目方の軽重	186,
やのもちかた	矢の持ち方	89,163,
やのもつところ	矢の持つところ	163,
やは、いたつきをまえ	やは、板付を前	88,
やはかほうにおちる	やは下方に落ちる	124,
やはからだとへいこう	やは体と平行	113,
やはすいへい	やは水平	120,
やはすいへいではない	やは水平ではない	124,
やはすいへいめんにたいして	やは水平面に対して	89,
やはすがつるからはなれる	矢筈が弦から離れる	174,
やはたいしゅつのさいとってしりぞく	矢は退出の際とって退く	174,
やはただしくまとのちゆうしんせん	矢は正しう的の中心線	119,
やばね	矢羽根	124,
やばねのくき	矢羽根の茎	96,
やはまとまえよりけいりょう	やは的前より軽量	124,
やみち	矢道	151,193,
やもしつけによわい	矢も湿気に弱い	185,
やわたし	矢渡	132,
やわたしのまえにおこなうしゃれい	矢渡の前に行く射礼	132,
やをいるかてい	矢を射る過程	104,
やをさゆうにうちこむ	矢を左右に打ち込む	146,
やをさんどはごき	矢を三度羽ごき	151,
やをしゃしゆにわたす	矢を射手に渡す	152,181,
やをたてかけるよごぎ	矢をたてかける横木	144,
やをつがえる	矢を番える	95,156,164,170,183,
やをぬくばあい	矢をぬく場合	145,153,
やをはってみる	矢を発してみる	24,
やをひだりてにうつし	矢を左手に移し	173,
やをみぎてにとつて	矢を右手にとつて	173,
やをみぎてのこゆびとくすりゆびで	矢を右手の小指と薬指で	88,89,
やをもつて	矢をもつ手	89,
やごろ	穀	118,
やじり	鏃	38,
やつのふし	八つの節	105,
やまと	大和	57,

ゆ

ゆう	揖	61,63,64,86,87,
ゆうのどうさ	揖の動作	87,
ゆうをして	揖をして	157,169,
ゆうをおこない、たつ	揖を行い、立つ	136,
ゆうをおこない、ゆだおしでたつ	揖を行い、弓倒しで立つ	171,
ゆうをおこなう	揖を行う	133,137,140,141,143,161,
ゆうをおこなったのち	揖を行ったのち	154,
ゆうが	優雅	60,
ゆうがにおこなう	優雅におこなう	147,
ゆうり	有利	31,
ゆか	床	69,
ゆがけ	碟	185,
ゆがけ	[碟]	192,
ゆがけには	碟には	185,
ゆがけのおやゆびとつる	碟の拇指と弦	101,
ゆがけのしゅるい	碟の種類	163,
ゆがけのとくちょうときのう	碟の特長と機能	185,
ゆがけのほしをつるに	碟の拇指を弦に	109,
ゆがけはしゅるいによって	碟は種類によって	185,
ゆがまえ	弓構え	104,109,111,
ゆきのめつけ	雪の目付け	102,
ゆずりば	弓摺羽	192,
ゆだおし	弓倒し	↓
ゆだおしでたつ	弓倒しで立つ	171,
ゆだおしではずをたもつ	弓倒しで筈を保つ	155,156,
ゆだおしという	弓倒しという	122,
ゆだおしとどうじに	弓倒しと同時に	148,159,
ゆだおしのあと	弓倒しの後	139,
ゆだおしのさい	弓倒しの際	178,
ゆだおしもいきてくる	弓倒しも生きてくる	122,
ゆだおしをし	弓倒しをし	135,137,140,164,
ゆづるをうちならすぎしき	弓弦を打ち鳴らす儀式	27,
ゆび	指	↓
ゆびさきがひざがしらとへいこう	指先が膝頭と平行	82,
ゆびさきがゆかからはなれないよう	指先が床から離れないよう	79,
ゆびさきがゆかにつく	指先が床につく	82,
ゆびさきはきゅうじゅうどのせんじょう	指先は九十度の線上	79,
ゆびさきはややうちがわにむく	指先はやや内側に向く	68,
ゆびさきをそろえ	指先をそろえ	92,
ゆびさきをひざがしらにならべ	指先を膝頭にならべ	80,
ゆびさきをもものりょうわき	指先を腿の両脇	153,
ゆびをひらかず	指を開かず	66,67,
ゆみ	「弓」	26,
ゆみ	[弓]	184,190,
ゆみいちじょう	弓一丈	141,142,189,
ゆみでからだをささえない	弓で体を支えない	71,
ゆみとこだいみんぞく	弓と古代民族	22,
ゆみでひきよせ	弓で引き寄せ	173,
ゆみとおしでのてのうち	弓と押手の手の内	101,
ゆみとにほんじんのせいかつ	弓と日本人の生活	22,
ゆみとや	弓と矢	101,
ゆみとやがおなじたかさ	弓と矢が同じ高さ	169,
ゆみとやのぶんり	弓と矢の分離	118,
ゆみとやはおなじかくど	弓と矢は同じ角度	89,
ゆみとやによって	弓と矢によって	24,
ゆみにそうしよく	弓に装飾	27,
ゆみにたいするかんねん	弓に対する観念	27,28,
ゆみにたいするじょうそう	弓に対する情操	35,
ゆみにちかいほうのあしに	弓に近い方の足に	172,
ゆみにもちそえ	弓に持ち添え	173,
ゆみにやをつがえる	弓に矢をつがえる	24,
ゆみのいち	弓の位置	135,
ゆみのうつくしさ	弓の美しさ	32,

ゆみのえもの	「弓の獲物」	27,
ゆみのおうだんめん	〔弓の横断面〕	191,
ゆみのかたち	弓の形	23,185,
ゆみのかたちのうえにもえいきょう	弓の形の上にも影響	29,
ゆみのきょうじゃく	弓の強弱	120,186,
ゆみのけいとう	弓の系統	28,
ゆみのささげかたについて	弓の捧げ方について	178,
ゆみのぜんちょうにぶんぱい	弓の全長に分配	32,
ゆみのしたのなりばのあたり	弓の下の成り場のあたり	94,
ゆみのしゃほう	弓の射法	23,
ゆみのしよう	弓の使用	31,
ゆみのじょうほう	弓の上方	181,
ゆみのしんてきなめん	弓の心的な面	11,
ゆみのげんだいせい	弓の現代性	34,
ゆみのせいほう	弓の製法	24,
ゆみのたてかけ	弓の立て掛け	146,
ゆみのちかくまでほこう	弓の近くまで歩行	173,
ゆみのちから	弓の力	99,186,
ゆみのていこうりょく	弓の抵抗力	99,
ゆみのとどくはんいない	弓のとどく範囲内	173,
ゆみのながさ	弓の長さ	29,
ゆみのはこびかたについて	弓の運び方について	177,
ゆみのはそん	弓の破損	184,
ゆみのはったつ	弓の発達	25,
ゆみのひだりがわ	弓の左側	120,
ゆみのびてきそんげん	(弓の美的尊厳)	38,
ゆみのみかたとかかんがえかた	弓の見方とか考え方	11,
ゆみのわたしかたについて	弓の渡し方について	179,
ゆみはからだのちゅうおう	弓は体の中央	161,
ゆみはきぐ	弓は器具	26,
ゆみはげんしてきなもの	弓は原始的なもの	21,
ゆみはたいりょくそうおうのもの	弓は体力相応のもの	124,
ゆみはつきもの	弓はつきもの	22,
ゆみはつねにかわいたぬのでよくふく	弓は常に乾いた布でよく拭く	184,
ゆみはつねに、みんぞくとともにあり	弓は常に、民族と共にあり	22,
ゆみはぶんぶじょうたいから	弓は分布状態から	22,
ゆみはややてりぎみ	弓はやや照り気味	124,
ゆみひとはりのながさ	弓一張の長さ	189,
ゆみふたはりのかたいれ	弓二張の肩入れ	100,
ゆみぶんか	(弓文化)	27,
ゆみやとからだとのたてよこじゅうもん	弓矢と体との縦横十文字	114,
ゆみやのいえ	「弓矢の家」	27,
ゆみやのざいりょう	弓矢の材料	23,
ゆみやのざんぞん	弓矢の残存	23,
ゆみやそのもの	弓矢そのもの	23,25,
ゆみやとして	弓矢として	35,
ゆみやのそぼくせい	弓矢の素朴性	25,
ゆみやのばあい	弓矢の場合は弓	69,
ゆみやのめつぼう	弓矢の滅亡	32,
ゆみやのれきし	弓矢の歴史は人類の歴史	24,
ゆみややのけいたい	弓や矢の形態	25,
ゆみやをそんすう	弓矢を尊崇	27,
ゆみやをほうじするきもち	弓矢を捧持する気持ち	179,
ゆみやをもったばあいのざれい	弓矢を持った場合の坐礼	82,
ゆみやをもったばあいのりつれい	弓矢を持った場合の立礼	84,
ゆみやをもったりょうこぶしのいち	弓矢を持った両拳の位置	89,
ゆみやをもってたつ	弓矢を持って立つ	71,
ゆみやをもってひかえ	弓矢を持って控え	154,
ゆみをあいてにわたすばあい	弓を相手に渡す場合	179,
ゆみをいかす	弓を生かす	86,
ゆみをいる	弓を射る	23,24,25,
ゆみをいるけいたいそのもの	弓を射る形態そのもの	38,
ゆみをおこし	弓を起こし	137,138,144,
ゆみをおこしつつ	弓を起こしつつ	142,

ゆみをおこしながら	弓を起こしながら	137,140,
ゆみをおしひらき	弓を押し開き	110,
ゆみをかかえこみ	弓をかかえ込み	137,138,
ゆみをかたくつよくにぎらず	弓を固く強く握らず	111,
ゆみをからだのちゆうおうに	弓を体の中央に	133,136,136,148,177,178,183,
ゆみをこきゆうにあわせてたおし	弓を呼吸に合わせて倒し	122,
ゆみをすいちよくにあげ	弓を垂直に上げ	133,
ゆみをたおし	弓を倒し	182,183,
ゆみをたて	弓を立て	136,142,170,
ゆみをとりのとしたばあい	弓を取り落とした場合	172,
ゆみをとりのとすことがある	弓を取り落とすことがある	172,
ゆみをとる	弓を取る	172,
ゆみをはそん	弓を破損	181,
ゆみをはるがごとき	弓を張るが如き	32,
ゆみをひだりわきにはこぶ	弓を左脇に運ぶ	139,143,146,161,
ゆみをひだりわきにはこんで	弓を左脇に運んで	133,136,140,
ゆみをまきわらだのみぎがわ	弓を巻藁台の右側	145,
ゆみをみぎてにうつしとりうちのへん	弓を右手に移し鳥打の辺	163,
ゆみをみぎてにうつしはだをいれ	弓を右手に移し肌をいれ	164,
ゆみをみぎてにうつしまきわらにたて	弓を右手に移し巻藁に立て	142,
ゆみをみぎてにうつすひつようはない	弓を右手に移す必要はない	137,141,
ゆみをみぎてにもちかえ	弓を右手に持ちかえ	141,
ゆみをもたないじんしゆはない	弓をもたない人種はない	31,
ゆみをやのうちがわにたて	弓を矢の内側に立て	183,
ゆみをやゝななめ	弓をやゝ斜め	140,
ゆみをれきしてきにかんがえて	弓を歴史的に考えて	24,
ゆるからず	緩からず	89,
ゆんで	弓手	↓
ゆんでさんぶんのにつるをおし	弓手三分の二弦を推し	54,
ゆんでにたいしてはめて	弓手に対しては妻手	115,
ゆんでのはなれ	弓手の離れ	121,
ゆんでをもってつるをおし	弓手を持って弦を押し	54,
よ		
ようぎ	容儀	63,
ようきゆうにひかく	洋弓に比較	22,
ようきゆうはじつりてき	洋弓は実利的	22,
ようしりんぜん	容姿凜然	60,
ようてい	要諦	17,
ようぼう	要望	14,
よくぼう	欲望	103,
よくぼう	慾望	119,
よこぎをうつ	横木をうつ	144,
よこぐし	横串	188,
よこせんのこうせい	横線の構成	117,
よこのせん	横の線	100,
よこはさゆうに	横は左右に	108,
よごれ	汚れ	184,
よごれもとりさる	よごれもとり去る	185,
よしみじゆんせい	吉見順正	↓
よしみじゆんせいしやほうくん	吉見順正射法訓	55,
よしみじゆんせいのいくん	吉見順正の遺訓	53,
よせあしにて	「寄せ足」にて	142,143,
よせあしにほ	寄せ足二歩	145,
よつかけ(がけ)	四つ弾	93,96,109,185,
よつがけ	(四つ弾)	192,
よつやのうちひとてのはずをもつ	四つ矢のうち一手の筈を持つ	183,
よつやのさばきかたについて	四つ矢のさばき方について	182,
よつやをからだのぜんぼうにおく	四つ矢を体の前方におく	182,183,
よつやをもって	四つ矢をもって	182,
よにんのばあいはしかつけい	四人の場合は四角形	158,
よよ	世々	128,
よわき	弱気	119,
よんじゆうごどをきじゆん	四十五度を基準	83,86,
よんしをそろえて	四指をそろえて	90,91,

よんぱんのつるねでゆみをたて	四番の弦音で弓を立て	170,
よんほんひご	(四本ひご)	191,
ら		
らいき	礼記	41,58,
らいきしゃぎ	礼記射義	55,
らいきのいくん	礼記の遺訓	52,
らいさん	礼讃	31,
らんしゃ	乱射	127,
らんちゆう	「卵中」	111,
り		
り	利	128,
りかい	理解	36,
りかいしてもらいたい	理解してもらいたい	11,
りかいときようりよく	理解と協力	15,
りがいとくしつ	利害得失	107,
りき	利器	27,28,31,
りきがくてき	力学的	46,
りじ	理事	14,
りつぜん	立禅	46,
りっしゃ	立射	168,
りっしゃという	「立射」という	168,
りつれい	立礼	61,83,84,
りつれいのこうさんしょう	立礼の項参照	137,
りつれいのばあい	立礼の場合	84,
りつれいのようしき	立礼の様式	80,
りべんをしょうけん	利便を条件	31,
りねん	(理念)	16,
りねんをとしてじゅつぎをしょうりやく	理念を説いて術技を省略	55,
りねんやきょうぎ	理念や教義	18-1,
りゆうにゆう	流入	29,
りゆうは	流派	154,
りゆうはのしやれい・たいはい	流派の射礼・体配	130,
りゆうはのとくしゆのろんこう	流派の特殊の論考	12,
りゆうはによって	流派によって	165,
りゆうはによってことなる	流派によって異なる	129,
りゆうはをこしつ	流派を固執	130,
りゆうはをことにする	流派を異にする	130,
りょうあし	両足	100,
りょうあしのあいだ	両足の間	179,
りょうあしのぼしをかさね	両足の拇指を重ね	67,
りょうあしをせつする	両足を接する	66,
りょうあしをそろえ	両足をそろえ	66,73,139,151,170,
りょうあしをそろえたまま	両足を揃えたまま	69,
りょうあしをふみそろえ	両足を踏みそろえ	133,
りょうあしをふみひらく	両足を踏みひらく	163,
りょうあしさきのかんかく	両足先の間隔	106,
りょうあしさきをまとのちゆうしん	両足先の的の中心	105,
りょうあしそこ-こし-りょうかた	両足底-腰-両肩	117,
りょうあしのあんてい	両足の安定	117,
りょうあしのかんかく・かくど	両足の間隔・角度	107,
りょうあしのひざかんせつ	両足の膝関節	106,
りょううで	両腕	100,
りょううではしぜんにたれ	両腕は自然に垂れ	66,
りょううでをかんつうしているなかすじ	両腕を貫通している中筋	117,
りょうがする	凌駕する	25,
りょうかた	両肩	→肩
りょうがん	両眼	120,
りょうきやく	両脚	100,
りょうぐ	獵具	32,57,
りょうこぶし	両拳	→拳
りょうしゃいったいとなつてこうどう	両者一体となつて行動	153,
りょうしゃのあいだにはけいちょうはない	両者の間には軽重はない	149,
りょうしゃへいりつ	両者並立	127,
りょうしゃをうむぜつたいてきじょうけん	良射を生む絶対的条件	117,

りょうて	両手	↓
りょうてくび	両手首	100,
りょうてさきのかんかく	両手先の間隔	82,
りょうてさきのみ	両手先のみ	115,
りょうてでものをだきかかえるよう	両手で物をだきかかえるよう	94,
りょうてでゆみをからだのちゅうおう	両手で弓を体の中央に立て	133,136,
りょうてでゆみをたてながら	両手で弓をたてながら	91,
りょうてにちからをいれず	両手に力をいれず	67,
りょうてにものをもったとき	両手に物を持ったとき	69,
りょうてにゆみやをもつ	両手に弓矢をもつ	88,
りょうてのいち	両手の位置	84,87,
りょうてのたかさのげんど	両手の高さの限度	179,
りょうてのはこび	両手の運び	81,
りょうてのぼしがしら	両手の拇指頭	80,
りょうてのゆびさき	両手の指先	83,
りょうてはあいたいしえんそう	両手は相對し円相	89,
りょうてはじょうたいのはこびにおうじ	両手は上体の運びに応じ	81,
りょうてはめどおりのたかさ	両手は目通りの高さ	178,179,
りょうてもからだにそってふくする	両手も体に沿って復する	81,
りょうてゆび	両手指	100,
りょうてをさげてはならない	両手を下げてはならない	84,
りょうてをまえに	両手を前に	80,
りょうてをもとのいちに	両手を元の位置に	83,
りょうひ	良否	112,
りょうひざ	両膝	→膝
りょうひざがしら	両膝頭	→膝頭
りょうひじ	両肘	→肘
りょうもも	両腿	→腿
りろん	理論	12,
りろんてき	理論的	47,
りんり	倫理	38,39,40,
りんりか	倫理化	41,
りんりせい	倫理性	35,37,43,
りんりてき	倫理的	39,40,41,

れ

れい(礼儀・のり)	礼	29,37,39,40,43,127,
れいけ	礼家	39,
れいしゃけいとう	礼射系統	154,
れいせつ	礼節	17,57,127,129,
れいせつにてっし	礼節に徹し	86,
れいせつをうしなつた	礼節を失つた	127,
れいにおぼれてしゃぎをおろそか	礼に溺れて射技をおろそか	127,
れいにそくしたたいはいのしゅうれん	礼に即した体配の修練	
れいにはじまってれいにおわる	礼に始まって礼に終わる	128,
れいのはっせい	礼の発生	39,
れいのび	「礼の美」	31,44,
れいはおがさわら	礼は小笠原	127,
れいほうぎしき	礼法儀式	127,
れいほうにしたがってしゃをおこなう	礼法に従って射を行う	128,
れいをしつしたしゃぎ	礼を失した射技は	127,
れい(おじぎ)	礼	61,63,64,79,80,81,
れいによするじかん	礼に要する時間	84,
れいのかんねん	礼の觀念	176,
れいのこころえ	礼の心得	80,
れいのとくとおなじく	礼のとくとおなじく	87,
れいのようしき	礼の様式	82,84,
れいをおこない	礼を行ひ	133,
れいをしつしない	礼を失しない	189,
れいをしてたいしゆつする	礼をして退出する	136,
れいき	靈器	26,
れいせい	冷静	119,
れいめいのくらい	黎明の位	55,
れきしてきけいか	歴史的経過	129,
れきしのながいこと	歴史の長いこと	21,

れんしゅうようにしよう	練習用に使用	187,
れんたいのせめ	連帯の責め	158,
れんたつしゃによって	練達者によって	129,
れんたつしゃのおうようどうさ	練達者の応用動作	108,
れんびんのじょう	憐びんの情	59,
ろ		
ろうし	老子	32,
ろくしゃくいじょう	(六尺)以上	29,
ろくしゃくはっすんないがい	六尺八寸内外	30,
ろくしゃくろくすん	六尺六寸	188,
ろくすん	六寸	188,
ろくななしゃく	(六~七尺)	29,
わ		
わ	和	62,
わいきよく	歪曲	103,
わいしゃつにねくたい	ワイシャツにネクタイ	190,
わかりやすくこんせつ	わかりやすく懇切	
わきしょうめん	脇正面	193,
わきしょうめんにひらきあし	脇正面に開き足	177,
わきしょうめんにむかったままあしをと	脇正面に向かったまま足を閉じ	159,170,171,
わきしょうめんにむかったままみぎあし	脇正面に向かったまま右足より	123,
わきしょうめんにむきかわるとともに	脇正面に向き変わるとともに	183,
わきしょうめんにむきをかえ	脇正面に向きを変え	141,158,182,
わきしょうめんにむきをかえつつあしぶ	脇正面に向きを変えつつ足踏み	137,
わきしょうめんにむきをかえつつみぎて	脇正面に向きを変えつつ右手を籐頭	90,133,
わきしょうめんにむきをかえつつゆみを	脇正面に向きを変えつつ弓を左脇	136,
わきしょうめんにむきをかえていく	脇正面に向きを変えていく	178,
わきしょうめんにむきをかえておとやを	脇正面に向きを変えて乙矢を番え	157,
わきしょうめんにむきをかえてのち	脇正面に向きを変えてのち	154,168,
わきしょうめんにむきをかえてはだをぬ	脇正面に向きを変えて肌をぬぎ	136,
わきしょうめんにむきをかえ、はだをい	脇正面に向きを変え、肌をいれる	159,
わきしょうめんにむきをかえ、ゆみをた	脇正面に向きを変え、弓を立てる	91,133,177,178,
わきしょうめんにむきをかえる	脇正面に向きを変える	156,159,160,169,
わきぶとせぶをくつろげる	脇部と背部をくつろげる	91,
わきなか(ももだち)	脇中(股立)	93,94,
わけい	和敬	17,
わごう	和合	54,
わざ	技	↓
わざからみちへすすんだ	「技」から「道」へ進んだ	
わざどころ	技と心	47,
わざにゆうせん	技に優先	119,
わざによってはなす	技によって離す	118,
わざのはたらき	技の働き	121,
わざはじゅうぶんにはたらいている	技は十分に働いている	118,
わざはすえなり	技は末なり	58,
わざもこころも	技も心も	47,
わざ・れい	技・礼	127,
わざをいかす	技を生かす	119,
わさだいはちろう	和佐大八郎	53,
わたすほうはしゃしゆのこうほうより	渡す方は射手の後方より	180,
わにまく	輪にまく	173,
わふく	和服	↓
わふく・きゅうどうい	和服・弓道衣	162,190,
わふく・きゅうどうい・たび	和服・弓道衣・足袋	189,
わふく、きゅうどういいずれでも	和服、弓道衣いずれでも	164,
わふくでまきわらまえのたちしゃれい	和服で巻藁前の立射礼	145,
わふくにたすきがけ	和服に褌がけ	147,
わふくのしゃしゆ	和服の射手	162,164,
わふくのばあい	和服の場合	146,169,
わふくちゃくようのばあい	和服を着用の場合	137,140,
わふくをちゃくよう	和服を着用	90,
わへい	和平	43,
わり	割り	165,
わりひざ・つくばい	割膝・つくばい	165,

わりひざまたは	「割膝」または	165,
わんきゅう	彎弓	29,
わんきゅうのちょうしょ	彎弓の長所	29,
他		
Lじがたにふみだし	L字形に踏み出し	76,
Tじがたにかけ	T字形にかけ	75,76,